

14.
(官幣大社)
扶餘神宮

I-0521

0472

官教第二五〇〇號

接	受	昭	和	年	月	日	決	裁	昭	和	拾	年	七	月	廿	八	日				
起	案	昭	和	十	年	七	月	廿	八	日	施	行	昭	和	十	年	七	月	廿	八	日
完	結	昭	和	年	月	日	書	淨	合	校	送	發									

次
官
秘書課長

管理局長

次
明解政務總監宛

I-0521

0473

官秩 二五〇〇
支七支

昭和拾...月廿八日
昭和...

安出

朝鮮政務總監宛

次官

褒章條例之依公益團體認定件
扶餘神宮奉贊會

I-0521

0404

標 務 省

五月七日教補第五三四號ヲ以テ標記團體ヲ褒章

條例ニ依ル公登團體トシテ認定方申請ノ處別

紙ノ通系認相次候條及通知候也

(別紙) 賞勳事務總裁 田島ヲ騰字添付ス

(起案用紙三號ノ三) 公 井 禮

(日本標準規格 B. 5)

I-0521

0475

勳褒發第一四號

昭和十七年七月二十四日

賞勳局總裁 瀨古保次

逕務大臣 井野碩哉 殿



褒章條例ニ依ル公益団体認定方ノ件

本年七月十三日附官秘第五〇〇號ヲ以テ御照會ニ係ル首題ノ件爾後左記ニ依リ扶餘神宮奉贊會ノ名稱ノ下ニ行賞事務ヲ取扱フベク右回答ニ及候

記

一 本取扱ハ昭和十五年七月五日ヨリ同二十年七月廾日迄トス

一 寄附行爲、諸規則、役員變更ノ場合ハ速ニ當局ニ報告ノコト

内閣



一 毎年度出納閉鎖後三ヶ月以内ニ財産目録、歳入歳出決算書、事業報告書、次年度歳入歳出豫算書及次年度事業計劃書ヲ當局ニ提出ノコト

内閣

H5 517217-000

R5 517217-000

I-0521

0476

官秘第一五〇號
 昭和十七年七月十五日
 施行
 昭和三十七年七月拾日
 完結
 昭和十七年七月

次
 秘書課長

大臣
 管理局長

案

賞勳局總裁宛

大臣

復章條例ニ関スル公益團體認定ノ件
 扶餘神宮奉贊會

石 務 官

I-0521

0477

右ハ扶餘神宮御造堂ニ關シ國費ノ及ハサルヲ
 補ヒ以テ其ノ完璧ヲ期シ彌々神徳ヲ顯揚シ
 及心歸一、内解一體、具現ヲ目的トシテ設
 立セラレ基礎鞏固ニシテ事業遂行ノ見込
 確實ナルモノニ依テ復章條例ニ關スル内規亦
 一條ノ公益團體トシテ御認定相成度趣朝

(起案用紙三號ノ三)(富非精)

(日本標準規格 B. 5)

I-0521

0478

大日本帝國政府

鮮總督より申請有之候條何分、御座候相
成反關係者類相添、此條案請候也

(規定規格52×75mm)

I-0521

0479

寫

秘補第五二四號

昭和十七年五月七日

朝鮮總督 小 磯 國 昭

賞勳局總裁 瀨 古 保 次 殿

扶餘神宮奉贊會ヲ褒章條例ニ關スル
内規第二條ノ公益團體トシテ認定ノ件

昭和十四年六月畏クモ内鮮ノ緣由特ニ深キ百濟ノ故都、忠清南道扶餘ノ地ニ官幣大社扶餘神宮御創立ノ 聖旨ヲ拜シ總督府ニ於テハ昭和十四年度以降五箇年繼續豫算百五十萬圓ヲ計上シ之ガ御造營ニ着手セル處半島官民ノ本事業ニ對スル翼贊ノ熱意ハ或ハ勤勞奉仕トナリ、或ハ

朝鮮總督府

淨財ノ寄進トナリ昭和十六年四月扶餘神宮奉贊會ノ設立ヲ見ルニ至レ
ルガ同會ハ神宮御造營ニ關シ國費ノ及バザルヲ補ヒ以テ爛々神徳ヲ顯
揚シ民心歸一、内鮮一體ノ本源ヲ茲ニ具現スルヲ目的トシ時局下國民
總力運動ニ寄與スルトコロ亦不尠、其ノ寄附受入豫定額モ百五十萬圓
ニ達スルヲ以テ各寄附者ヲシテ褒章條例ニ依ル表彰ノ恩典ニ浴セシメ
度ニ付同條例ニ關スル内規第二條ノ公益團體トシテ認定方特ニ御詮議
相成度關係書類相添へ此段及申請候也

(小 葉 切)

日本標準規格 B4 (257×364mm)



I-0521

0480

一 扶餘神宮奉贊會之沿革

本會創立、緣由及國費事業ト、因係ニ何テハ別添
趣旨書其、祀ニ詳記ノ通ナル處此、間、経緯ヲ畧記セバ
左、如ニ

(1) 昭和十六年三月二十九日

朝鮮總督府ニ本會設立準備委員會ヲ同催シ左ノ事件
ヲ協議可決ス

(1) 奉贊會趣旨書草案

(原案通)

(2) 奉贊會規則案

(一部修正ノトシ一任)

(3) 奉贊會發起人、選定

(原案通)

(4) 奉贊會事業計畫概要案

(同)

(5) 奉贊會寄附金募集要領案

(同)

朝鮮總督府

〽 奉贊會創立總會期日

(一任)

(2) 昭和十六年四月二十六日

朝鮮總督府ニ本會創立總會ヲ同催(發起人名簿別添
ノ通)ニ前項(1)及(2)及至(5)、各項ニ付協議原案通
可決シ會長ニ朝鮮總督府政務總監ヲ總督勅ニ朝鮮
總督推戴セシメタリ

(3) 昭和十六年五月三十日 本副會長以下各職員ヲ委嘱

(4) 昭和十六年七月九日

本會事業資金寄附金募集ノ件許可セラル

(5) 昭和十六年八月三十一日

扶餘神宮ニ創立ノ地元道ニ設ケラレタル既存同
神宮奉贊團體ヲリシ扶餘神宮定清南道奉贊會(昭

京城(谷岡稿)

和十五年七月五日設立ノヲ吸收シ其ノ事業繼續務積
權等一切ヲ本會ニ引継タリ

(6) 昭和十六年十月十日

臨時資金調整法第四條ノニノ規定ニ依ル本會事業
業談編新設ニ対スル許可ヲ受リ

(7) 昭和十六年十月二十日

本會顧問ヲ委嘱

朝鮮總督府

京城(谷洞橋)

I-0521

0482

扶餘神宮奉贊會設立趣意書

恭しく惟るに

應 神 天 皇

齊 明 天 皇

天 智 天 皇

神 功 皇 后

は、畏くも深く大御心を内鮮の共榮に致させ給ひ、一視同仁の聖化半島に普く、彼此の文化は交流し、民族は融合して一家の親を致し、相倚り相助けて共存の實大いに擧り、永く萬世に亘つて内鮮一體の鴻範を垂示し給へり

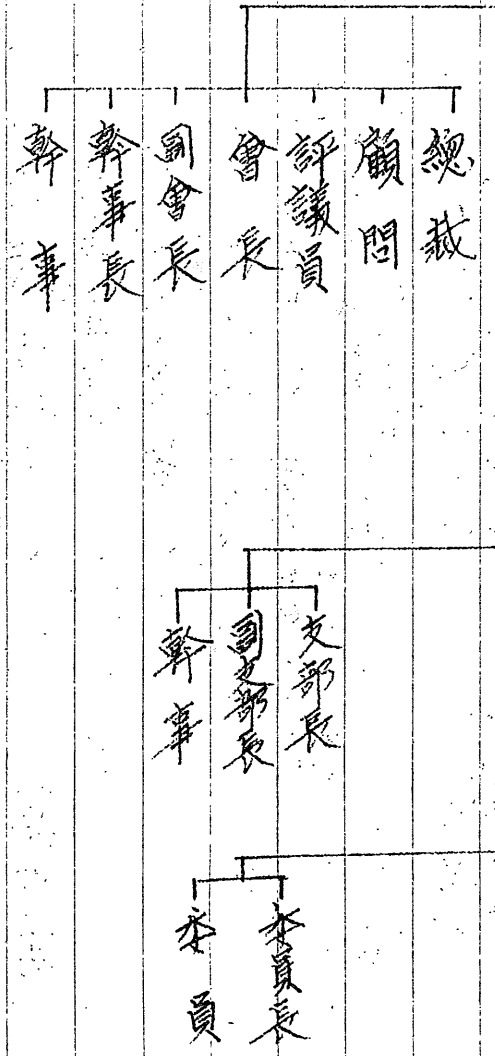
爾來春秋幾百千、半島官民今に及んで這仰措かず。乃ち退に御神靈を奉じて斯土に鎮祭し、厚く報本反始の神典を致すと共に、永く神明の加護を乞はむことを祈念し奉りしに、畏くも昭和十四年六月十五日を以て、内鮮の緣由最も深き百濟の故都、扶餘郡扶餘面に、上御四柱の神々を奉齋すべき、官幣大社扶餘神宮を御創立在らせらるる旨 仰出さる。聖慮深遠眞に恐懼に禁へず

茲を以て朝鮮總督府に於ては、聖旨を三み國帑を以て之が御造營を企圖せりと雖、惟ふに此の種事業は官民一致の協賛に依りて神威彌々赫き、神德昭々、永く民風教化の本源たるを得べし

仍て有志相謀り扶餘神宮奉贊會を組織して、廣く獻資を募り、神宮奉建の御事業を翼賛し奉らむとす

三 扶餘神宮奉贊會組織

本部(朝鮮總督府内務局内) — 吏部(道庁内) — 本員部(府内)



備考

朝鮮總督府

本會、事業、八國貴族、事業、下併行セラルベク、女性、性質、上別添、扶餘神宮、造、造、委員、會、及、同、造、造、事務、局、下、委、切、不可、分、因、係、在、存、本、表、ハ、右、各、機、関、ハ、一、應、之、ヲ、記、載、シ、タ、ル、事、也、當、然、相、連、絡、セ、ラ、ル、ベ、ク、ト、ス

京城(谷岡)

四扶餘神宮奉贊會役員名簿

本部役員

總裁

朝鮮總督

南次郎

顧問

宮内大臣

松平恒雄

拓務大臣

井野碩哉

神祇院總裁

湯澤三十男

大日本神祇會長

永野鍊太郎

皇典講究所長

候壽 佐六 不行志

陸軍大將

宇垣一成

陸軍大將

小磯國昭

朝鮮總督府

白齋 兎玉秀雄

岡屋貞三郎

會長

朝鮮總督府政務總監

大野謙一郎

副會長

朝鮮總督府司政局長

鈴川壽男

株式會社朝鮮殖産銀行頭取

林 繁 藏

中樞院副議長

李秉勳 鎭

評議員

伊藤 泰吉

伊藤 泰 彬

伊東 致 昊

石田 千太郎

石原 磯次郎

石塚 峻

京城(香園跡)

高安考	高元勳	藤原喜藏	瀨戸道一	松原純一	真崎長年	矢野桃郎	矢鍋永三郎	柳生繁雄	山澤初三郎	小倉武之助	小田新十郎	大野謙一	岡崎哲郎	内山弥一	野口遵	磯井忠平	鳥川悠源	中井傳	武者鏗三	田川常治郎	行永穆	朝鮮總督府	谷多喜應	伊達四雄	高尾甚造	丹下郁太郎	武永憲樹	松村基弘	桂山麟	韓相龍	上内孝策	片岡勉	川岸文三郎	甘度義邦	金行泰男	水本文憲	渡邊豊日子	上瀧基	李恒九	朴興植	西岡芳次郎	朴澤相駿	萩原彦三	林茂樹	井上清	井垣圭復
-----	-----	------	------	------	------	------	-------	------	-------	-------	-------	------	------	------	-----	------	------	-----	------	-------	-----	-------	------	------	------	-------	------	------	-----	-----	------	-----	-------	------	------	------	-------	-----	-----	-----	-------	------	------	-----	-----	------

京城(谷岡稿)

I-0521

0486

三三
三三

安藤 崇城

阿部 十一

佐々木 忠也 衛門

菊山 時權

金 安 孫

湯村 辰二郎

水田 直昌

高木 元

三橋 孝一郎

御子 洗辰雄

三井 榮長

美座 流石

新貝 肇

塩田 正英

篠田 忍策

白石 元忍郎

人見 次郎

森本 伊市郎

歌 新 翁

高橋 理

森 長文

朝鮮總督府

幹事長

朝鮮總督府司政局長

鈴川 壽男

幹事

朝鮮總督府事務官

美根 五郎

同

渡邊 肆郎

同

倉島 至

同

森 長文

同

筒井 竹雄

同

磯崎 廣行

同

林 勝壽

同

横井 増治

同

奥村 重正

京城(各別格)

I-0521

0480

朝鮮軍高級副官
朝鮮憲兵隊副官
朝生平四郎
中山隆禮

支部隊員(以下武官首置)

支部長 (各道知事)

副支部長 (各道口警部長及各道口會副議長)

幹事 (各道地方課長及會計課長(口警課長))

委員部隊員

委員長 (府尹、郡守、島司)

委員 (前口警課長、前口警課長、郡島口警課長)

邑區長、團議長(除キル道會議員、村)

會議員、邑會議員(其他有力者)

朝鮮總督府

京城(谷田橋)

I-0521

0489

五 財産目録

① 現金ノ部

② 建物ノ部

③ 普通財産(備品)ノ部

朝鮮總督府

京城(谷田路)

I-0521

0490

朝鮮總督府																種別	現金部	考
																預金	現金部	
																	員三九四	(歲計金)

單位(金圓)

I-0521

0491

京城(谷岡町)

朝鮮總督府

計	同	同	同	同	忠清南道	道
	同	同	同	同	扶餘	所
	同	同	同	同	扶餘	面
	同	同	同	同	旧枝	里
	同				一ノ四	地番
	同	同	木造板葺	木造下葺	平衆建	構造
一四二	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一五〇	一八九	坪数
一四九〇〇	一四七五	二〇〇〇	一四九〇	二〇〇〇	一四八五	價格
	并屋形(白瓦葺)	便所(女子用)	便所(男子用)	大鼓置場	白瓦葺(白瓦葺)	備考

I-0521

0492

普通財産(備品)部

品名	数量	単價	價格	品名	数量	単價	價格
前置帳簿	一	二九。	二九。	片桐卓子	一	五三。	五三。
印鑑箱	一	四九。	四九。	椅子	一	三三。	三三。
書類箱	二	三六。	七二。	書類棚	一	一四九。	一四九。
算盤	二	三三。	六六。	支那長印	一	五。	五。
硯箱	一	一九。	一九。	支那印	一	八。	八。
内池	一	六。	六。	ヤシロコ	一	一四八。	一四八。
スタンプ書	一	八五。	八五。	要稅模切鑑	二	三五。	七〇。
會印	一	六。	六。	木廻ソル	三	六。	一八。
會長印	一	四八。	四八。	木廻返	五	七。	三五。
幹事長印	一	四四。	四四。	ハンマー中	一	三。	三。
スエーデンバー	一	二〇五。	二〇五。	ハンマー小	一	一。	一。
ハンマー丸型	一	八。	八。	火箸	一	三。	三。
ハンマー十字型	一	八。	八。	火箸	一	三。	三。
鋸切甲刃木	一	二。	二。	火箸	一	三。	三。
鋸継用コラ	二	一五。	三〇。	火箸	一	三。	三。
金床	一	一〇。	一〇。	火箸	一	三。	三。
鋸牌入足盤	一	二二。	二二。	火箸	一	三。	三。
吹子	一	二六。	二六。	火箸	一	三。	三。
帶鋸齒打板	一	三三。	三三。	火箸	一	三。	三。
用ポンク	一	三三。	三三。	火箸	一	三。	三。
鋸片	一	二八。	二八。	火箸	一	三。	三。
金平	一	一七。	一七。	火箸	一	三。	三。
シヤキ平型	一	二八。	二八。	火箸	一	三。	三。
物箱	一	四一。	四一。	火箸	一	三。	三。
保管箱	一	四三。	四三。	火箸	一	三。	三。

朝鮮總督府

京城(谷岡精)

I-0521

0493

日本式水揚器	水タンク	洗面用洗桶	襦	掛時計	傘	板着杖	履具	蒲團	藥	電氣カバ	印箱	大鼓拵	大鼓	朝鮮釜	朝鮮釜	毛布	規箱
一	五	四	二	二	四	四	一	一	二	一	一	一	一	三	一	二	一
五〇五〇	三二七五	九〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	一八〇	六三三	四二〇	二八〇	二八〇〇	一〇〇〇	九〇〇	一八七五	六四〇
五〇五〇	三二七五	九〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	一八〇	六三三	四二〇	二八〇	二八〇〇	一〇〇〇	九〇〇	一八七五	六四〇
朝鮮總督府									二	六	一	三	三	三	一	二	一
									一〇〇〇	七	一	二	一	一	八	七	四
									三〇〇	四	一	四	五	一	六	一	四

I-0521

0494

六 財産ニ関スル権利證明書

朝鮮總督府

京城(谷門橋)

I-0521

0495

預金現在高証明願

一金四萬四千六百九拾貳圓四拾錢也

但ニ當座勘定預金トシテ貴行預入中、昭和十

六年十月末日現在本會預金残高

右相違無之コトヲ証明相成度此致及御願候也

昭和十一年十一月八日

扶餘神宮奉贊幹事長 上 龍 基

株式會社漢城銀行 御中

朝鮮總督府

京城(谷岡橋)

I-0521

0496

一 建物ノ表示
 建物所有証明額

道	郡	町	村	番地	構造	坪数	棟数	備考
忠清道	扶餘	扶餘	旧校	一七四	平家建	一一九坪	一	勤勞奉仕隊商 會(白江寮)
全	全	全	全	全	不造瓦葺	一五〇	壹	大穀置場 (作葉場也)
全	全	全	全	全	不造瓦葺	一〇〇	壹	男子用便所
全	全	全	全	全	不造瓦葺	一〇〇	壹	女子用便所
全	全	全	全	全	不造瓦葺	一〇〇	壹	并戸屋形 (白江四)
計						一一四一三	壹	

右ハ本會所有建物タルニ相違無之コトヲ証明相成度

此段及御願候也

昭和十六年十一月八日

扶餘神宮奉賛會幹事長 上 龍 基

扶餘面長殿

朝鮮總督府

京城(谷岡稿)

ノ扶餘神宮奉贊會會則

第一條 本會ハ扶餘神宮奉贊會ト稱ス

第二條 本會ハ本部ヲ京城府朝鮮總督府內務局內ニ置キ各道ニ支部ヲ各府郡島ニ委員部ヲ置ク

第三條 本會ハ扶餘神宮ノ御造營ヲ翼贊シ其ノ事業ノ完成ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第四條 本會ハ前條ノ目的ヲ達成センガ爲左ノ事業ヲ行フ

一 扶餘神宮ノ御造營ニ關スル事項

二 目的ノ達成ニ必要ナル寄附金ノ募集

三 其ノ他前條ノ目的ヲ達成スル爲必要ナル事項

第五條 本會ノ經費ハ寄附金其ノ他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第六條 本會ハ本會ノ事業ヲ翼贊シ金品ヲ寄附シタル者ヲ以テ之ヲ組織ス

織ス

會員ノ種別左ノ如シ

特別名譽會員 金一萬圓以上寄附シタル者又ハ本會ニ對シ特別ノ功勞アル者

名譽會員 金五千圓以上寄附シタル者

特別會員 金千圓以上寄附シタル者

正會員 金百圓以上寄附シタル者

贊助會員 金十圓以上寄附シタル者

準會員 金十圓未満寄附シタル者

造營物其ノ他ノ物件ヲ寄附シタルモノニ付テハ其ノ評定價格ヲ以テ前

項ノ寄附金額ト看做ス

第七條 本部ニ左ノ役員ヲ置ク

總裁

會長

副會長 三名

評議員 若干名

幹事長

幹事 若干名

第八條 支部ニ左ノ役員ヲ置ク

支部長

副支部長 二名

幹事 二名

第九條 委員部ニ左ノ役員ヲ置ク

委員長

委員 若干名

第十條 役員ハ名譽職トス

第十一條 本部及支部ニ有給ノ職員ヲ置クコトヲ得

第十二條 總裁ハ朝鮮總督ヲ推戴ス

第十三條 會長ハ朝鮮總督府政務總監ヲ推戴ス

第十四條 本部役員及支部長ハ會長之ヲ委嘱ス

第十五條 支部及委員部ノ役員ハ支部長之ヲ委嘱ス

第十六條 職員ハ會長又ハ支部長之ヲ命ズ

第十七條 總裁ハ會務ヲ總攬ス

第十八條 會長ハ會務ヲ統理シ本會ヲ代表ス

第十九條 副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキハ會長ノ指定シタル者之ヲ代理ス

第二十條 評議員ハ評議員會ヲ組織シ本會ノ重要事項ヲ議決ス

評議員會ノ議決ヲ經ベキ事件ニシテ輕易ナルモノハ書面ヲ以テ評議員ノ意見ヲ聽キ評議員會ノ議決ニ代フルコトヲ得

第二十一條 幹事長ハ會長ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌理ス

第二十二條 本會ニ顧問ヲ置クコトヲ得總裁ノ諮問ニ應ズルモノトス

第二十三條 支部長ハ會長ノ命ヲ承ケ支部ノ事務ヲ掌理ス

第二十四條 副支部長ハ支部長ヲ輔佐シ支部長事故アルトキハ支部長

ノ指定シタル者之ヲ代理ス

第二十五條 幹事ハ上司ノ命ヲ承ケ本部又ハ支部ノ事務ヲ分掌ス

第二十六條 委員長ハ支部長ノ命ヲ承ケ委員部ノ事務ヲ掌理シ委員ハ委員長ノ指揮ヲ承ケ事務ニ従事ス

第二十七條 職員ハ上司ノ命ヲ承ケ事務ニ従事ス

第二十八條 本會ハ會計年度ヲ設ケズ本會ノ事業期間ヲ通ジテ一會計トス

第二十九條 本會ノ經費收支豫算ハ評議員會ノ議決ヲ經テ之ヲ施行シ其ノ決算ハ評議員會ニ報告スルモノトス

第三十條 評議員會ハ會長之ヲ召集シ會長ヲ以テ議長トス

第三十一條 本會ノ資金ハ確實ナル金融機關ニ預入スベシ

第三十二條 本會ノ經費ヲ以テ造營又ハ取得シタル工作物竝ニ土地
其ノ他ノ物件ハ扶餘神宮ニ獻納スルモノトス

第三十三條 本會ノ收支決算ニ剩餘金ヲ生ジタルトキハ評議員會ノ議
決ヲ經扶餘神宮ニ寄進スルモノトス

第三十四條 本則ヲ變更セントスルトキハ評議員會ノ議決ヲ經ルモノ
トス

第三十五條 本會ハ第四條ノ事業ヲ完成シ殘務ノ整理ヲ終了シタルト
キニ於テ解散ス

第三十六條 本則施行ニ關シ必要ナル事項ハ會長之ヲ定ム

朝鮮總督府

八 扶養神宮御造營計畫概要

一 概況

官幣大社扶餘神宮ハ昭和十四年六月十五日勅立 仰出ヲ拜シタル
ガ之ヨリ先國ニ於テハ同神宮造營費トシテ昭和十四年度以降五ヶ
年ニ亘リ總額百五十萬圓ノ繼續費ヲ設立シアリタルヲ以テ爾來所
要敷地ノ買收、現地ノ測量計畫案ノ調査、立案、敷地地均工事參
道敷設工事等ニ着手施行シ來リ目下工事進捗中ナル所昭和十六年
四月二十六日有志相謀リ扶餘神宮奉贊會設立發起人會ヲ開催之ガ
設立ヲ決シ總事業費百五十萬圓ヲ以テ同事業ノ完竣ヲ圖ルコトト
ナレリ仍チ本事業ハ國費及奉贊會費合計三百萬圓ヲ以テ昭和十八
年度中ニ完成御神靈ヲ勸請シ奉ラントスルモノトス

一 社格及名稱

官幣大社扶餘神宮

一 祭神

應神天皇
齊明天皇
天智天皇
神功皇后
一 座

一 鎮座地

忠清南道扶餘郡扶餘面扶蘇山

一 營繕計畫ノ概要

- (1) 經費豫算
別紙附錄(2)「扶餘神宮造營費(國費)繼續費豫算」及第九號「扶餘神宮奉贊會收支豫算」ノ通
- (2) 工事内譯
別紙附錄(2)「扶餘神宮造營工事費(國費)内譯」及附錄(1)「扶餘神宮奉贊會事業工事費内譯」ノ通
- (3) 境内地及附屬地
六三四六〇坪
- (4) 國費買收地

日本標準規格 B1(364 x 257mm) 本紙適用

(四) 保管 替國有地	一四九九五四坪
(五) 公用廢止豫定國有地	三六〇〇坪
(ニ) 寄附採納豫定地	九〇八坪
(六) 奉贊會買收豫定地	六一、二五〇坪
合計	二七九、一七二坪

(4) 造營物構造様式

木造丹塗壁根本殿銅板葺、流造、其ノ他碧瓦葺入母屋竝ニ切妻造

(5) 造營期間

自昭和十四年度
至十八年度

一 鎮座祭豫定期

昭和十八年十月中

一 御造營機關ノ構成

朝鮮總督府

昭和十五年一月朝鮮總督府ニ扶餘神宮造營委員會及扶餘神宮造營事務局ヲ設置シ前者ハ斯界ノ權威者及朝鮮總督府關係局長並ニ關係道知事等ヲ委員トシ御造營ニ關スル重要事項ノ審議機關タラシメ後者ハ本事業ノ執行上關係ヲ有スベキ職員ヲ網羅シ本事業ノ執行機關タラシメ以テ本造營工事ノ完成ヲ圖ルコトナレリ

日本郵政省 印刷局 (B4(894 x 297mm)) 本紙製法

I-0521

0503

朝鮮總督府					川秋徳神宮奉賢會事業工事費内訳						
名	稱	摘要	負数	單價	小計	名	稱	摘要	負数	單價	小計
土地買收費		約六萬坪			二五〇,〇〇〇	土地買收費					
計		初級補償費			二五〇,〇〇〇	計					
土木工事費						土木工事費					
参道樹形整備			二〇〇坪	一五	三〇,〇〇〇	参道樹形整備					
各所公場切取敷			三〇〇坪	五	一五,〇〇〇	各所公場切取敷					
苑路			一〇〇坪	五	五,〇〇〇	苑路					
神鏡田			一式		一〇,〇〇〇	神鏡田					
境内園整備			一式		二五,〇〇〇	境内園整備					
工事雜費					五,〇〇〇	工事雜費					
計						計					
林苑工事費						林苑工事費					
主要地域植樹			一八,〇〇〇坪	五	九〇,〇〇〇	主要地域植樹					
山林整備			二〇,〇〇〇坪	五	一五,〇〇〇	山林整備					
苑地整理			一五,〇〇〇坪	五	七五,〇〇〇	苑地整理					
工事雜費			一式		一〇,〇〇〇	工事雜費					
計					一九〇,〇〇〇	計					
建築工事費						建築工事費					
障門		丹塗瓦葺	一五坪	八〇〇	一二,〇〇〇	障門					
脇門			一坪	三,〇〇〇	三,〇〇〇	脇門					
外廻廊			一〇坪	一,〇〇〇	一〇,〇〇〇	外廻廊					
左右舞台			一式		一五,〇〇〇	左右舞台					

京城(谷田橋)

I-0521

0504

扶餘神宮造營費(國費)繼續費豫算

科 目	總費額					
	十四年度	十五年度	十六年度	十七年度	十八年度	計
扶餘神宮造營費	一五,〇〇〇	四六,〇〇〇	二〇,〇〇〇	四五,〇〇〇	四五,〇〇〇	三五四,〇〇〇
奏任俸給	一四七〇		二,九四〇	三,九二〇	三,九二〇	三,九二〇
判任俸給	三〇,六〇〇		六,二〇〇	八,一六〇	八,一六〇	八,一六〇
事務費	七四七〇〇	七〇〇	二一,七四〇	一七,四二〇	一七,四二〇	一七,四二〇
工事費	一三〇,〇〇〇	四五,三〇〇	一六九,二〇〇	四二〇,五〇〇	四二〇,五〇〇	三三四,五〇〇
科 目	算出内譯					
營繕費	四六,〇〇〇	二〇,〇〇〇	四五,〇〇〇	四五,〇〇〇	三五四,〇〇〇	一五〇,〇〇〇
扶餘神宮造營費	四六,〇〇〇	二〇,〇〇〇	四五,〇〇〇	四五,〇〇〇	三五四,〇〇〇	一五〇,〇〇〇

朝鮮總督府

科 目	總費額					
	十四年度	十五年度	十六年度	十七年度	十八年度	計
奏任俸給	本俸 技師一人 十五年度 加俸四割	三九四〇	三九二〇	三九二〇	三九二〇	一四,一六〇
判任俸給	本俸 各年 加俸六割	二一〇〇	二八〇〇	二八〇〇	二八〇〇	一〇,五〇〇
事務費	廳費	八四〇	二一〇〇	二一〇〇	二一〇〇	八,一六〇
	内國旅費	六二〇	八二〇	八二〇	八二〇	三,一六〇
	囑託手當	三八五	二一〇	二一〇	二一〇	一,一六〇
	技師一人 十五年度 加俸	三九五	三〇六	三〇六	三〇六	一,一六〇
	技師一人 十五年度 加俸	二二八	一八〇	一八〇	一八〇	七〇〇
	技師一人 十五年度 加俸	一〇五	九二	九二	九二	三六〇
	囑託手當	五〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	一,六〇〇
	技師一人 十五年度 加俸	五三〇	一八〇	一八〇	一八〇	一,〇九〇
	技師一人 十五年度 加俸	三六〇	一八〇	一八〇	一八〇	九〇〇

京城(谷田路)

扶餘神宮造営工事費(國費)の詳

名	箱	要	員	数	單	價	小	計
土地買收費						円		
買收費							100,000	
計							100,000	
土木工事費								
敷地地拘							129,500	
表参道							37,500	
裏並欄参道							22,500	
谷所石垣石							15,000	
踏石							18,000	
水整備							9,000	
排水								
境内路								
計							240,000	
林苑工事費								
主要地域植樹							100,000	
其他地域植樹							20,000	
工事雜費							6,000	
計							126,000	
建築工事費								
本殿							47,000	
祝詞殿							42,500	
左右複廊							42,000	
全登廊							16,500	
丹塗銅板葺							35,000	
瓦葺							15,000	
計							147,000	
計							513,000	

朝鮮總督府

四五三〇四五六六三
九等十四年度支款

六三四六

円

円

本館(金田)

全着床敷	同	同	二坪	一五〇〇	三〇,〇〇〇
内院廻廊	同	同	六坪	一〇〇〇	六,〇〇〇
拜殿	同	同	四坪	一,〇〇〇	八,〇〇〇
翼廊	同		七坪	一,〇〇〇	一三,〇〇〇
東西神庫	同		六坪	二,〇〇〇	一三,〇〇〇
本殿周囲透塙	同		四坪	四〇〇	一七,〇〇〇
地主社保食社	同	至垣同	二坪二分		一〇,〇〇〇
神饌所	同	養廊同	三坪	九〇〇	三,〇〇〇
手水舎	同		二坪二分		一八,〇〇〇
鳥居	同		大石基		三,〇〇〇
齋館			一〇坪	五〇〇	五,〇〇〇
社務所			一三坪	四〇〇	五,〇〇〇
倉産			八坪	五〇〇	五,〇〇〇
小建敷物			一坪		九,〇〇〇
假敷物			一坪		二〇,〇〇〇
工番鞋費			一坪		三,〇〇〇
計					一四〇,〇〇〇
諸敷備費					
電気工事			一坪		二〇,〇〇〇
衛生工事其他			一坪		一〇,〇〇〇
計					三〇,〇〇〇
裝飾調度費					
殿内鋪敷			一坪		五〇,〇〇〇
狂言所其他			一坪		三〇,〇〇〇
調度費					三〇,〇〇〇

朝鮮總督府

京城(谷田路)

I-0521

0508

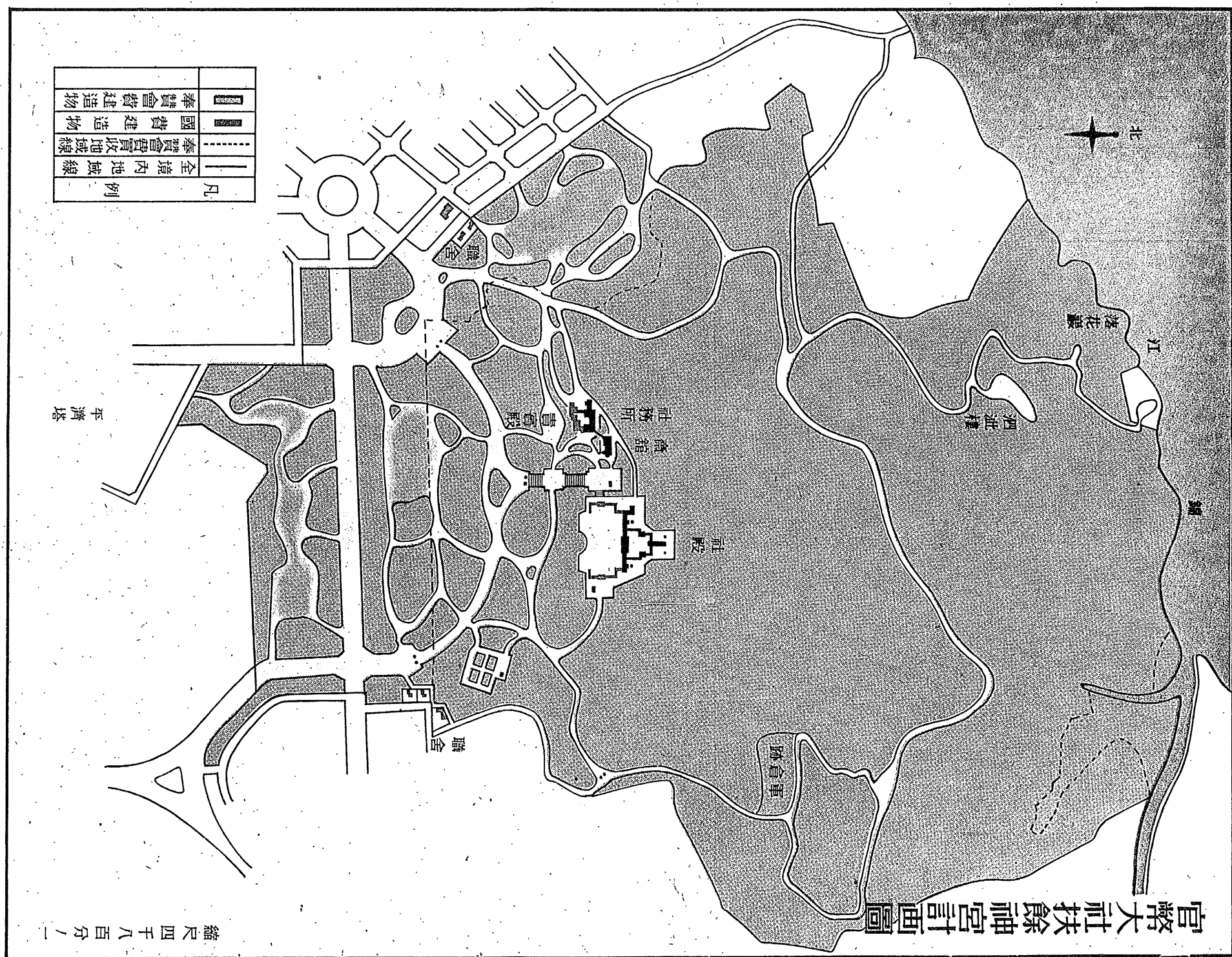
													計	奏	祭	合
													費	費	計	
													五〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	一三〇,〇〇〇

朝鮮總督府

京城(谷洞帖)

I-0521 |

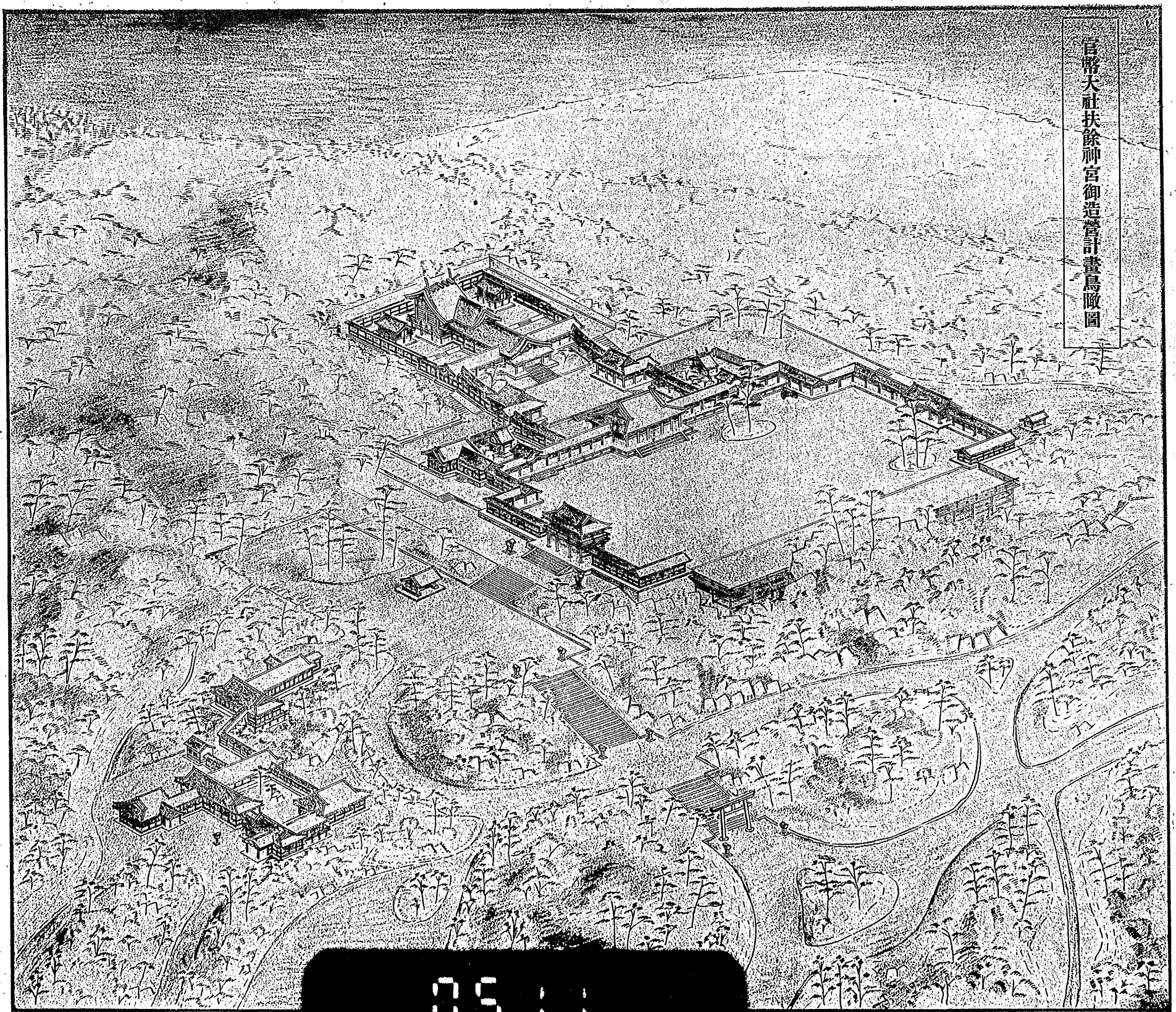
0509



I-0521

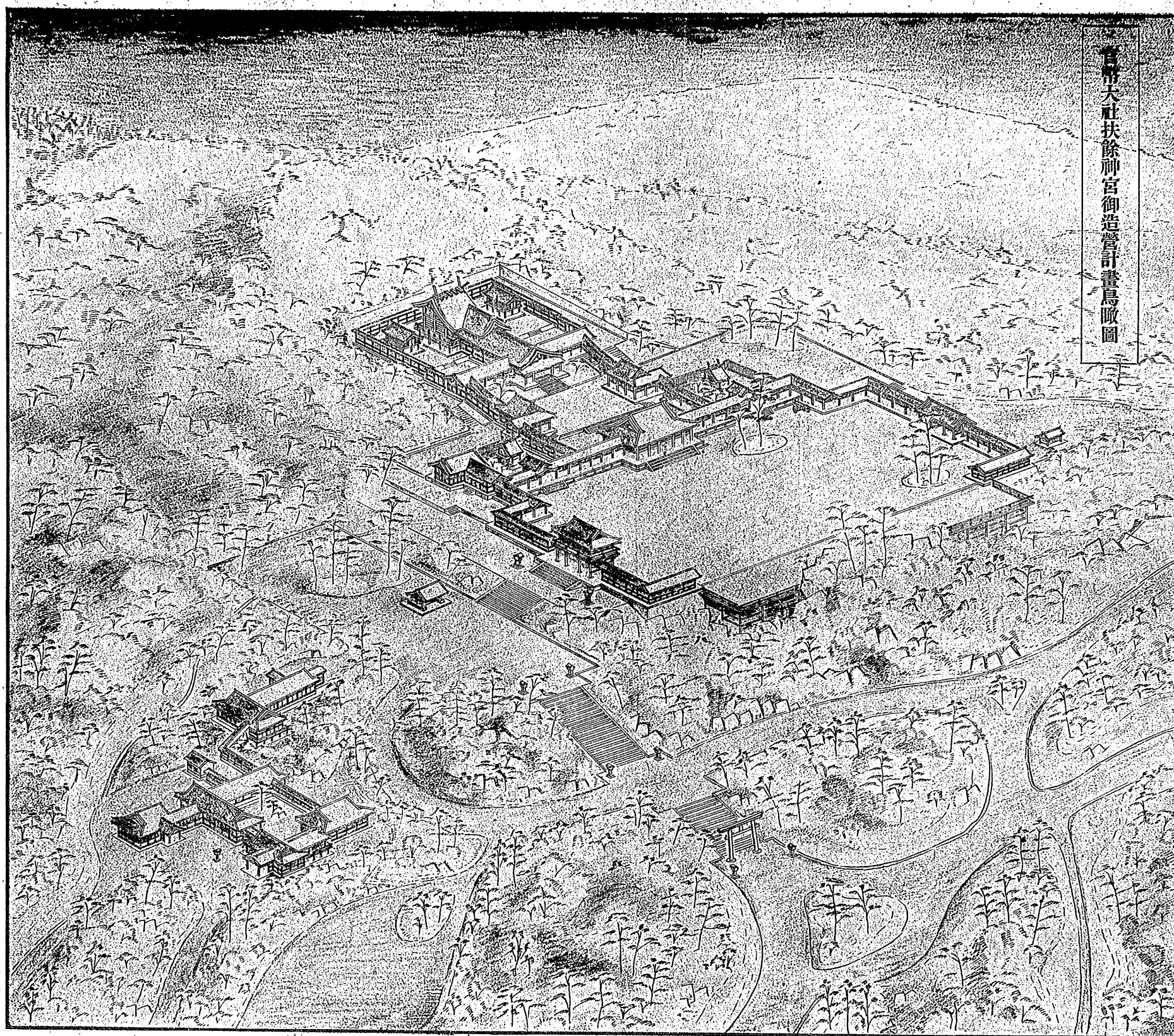
0510

百幣天社扶餘神宮御造營計畫鳥瞰圖



I-0521

0511



皇大神社扶餘神宮御造營計畫鳥瞰圖

I-0521

0512

九 扶餘神宮奉贊會收支豫算概算

扶餘神宮奉贊會收支豫算概算

收入

一金二百萬圓也

支出

一金二百萬圓也

收入支出差引殘金ナシ

I-0521

0513

扶餘神宮奉贊會收支決算概算

科	款	項	目	豫算額	附記
寄附金	公共團體	寄附金		1,000,000	
				1,500,000	
受入金	受入金	受入金		1,000,000	
				3,000,000	扶餘神宮忠清南道奉贊會ヨリ受入
製材収入	製材収入	製材収入		4,900,000	
				4,900,000	扶餘神宮造營用材収入
雑収入	雑収入	雑収入		1,000,000	
				1,000,000	預金利子収入 不用品賣却代
				20,000,000	

収入合計 20,000,000

支出

科	款	項	目	豫算額	附記
事務費	職員費	職員費		1,500,000	
				1,000,000	
			給料	1,000,000	書記ノ給料 二人 一人月額 250,000 圓 三六月分 囑託手當 3,000,000 圓 五人(技術) 一人月額 200,000 圓 三六月分 臨時囑託手當 4,000,000 圓 雇員給 2,500,000 圓 二人(事務) 一人月額 200,000 圓 三六月分

I-0521

0514

科	款	項	目	豫算額	附記
		二 需用費	二 雜給	九四二〇〇	六人(技術)一人月額二〇〇〇圓 三六月 〇 備人料 一〇〇〇〇 日額一圓延一〇〇〇人 〇 旅費 出張旅費 一〇一〇〇圓 赴任旅費 一七五〇〇 〇 臨時家族手當 三七五〇〇 〇 慰勞金 一〇〇〇〇
		三 備品費		一〇〇〇〇	
		四 圖書費及印刷費		三〇〇〇	
		五 消耗品費		一〇〇〇〇	
		六 通信運搬費		一〇〇〇〇	
		七 雜支出		四〇〇〇〇	

科	款	項	目	豫算額	附記
		一 會議費	一 會議諸費	一〇〇〇〇	支部交付金 一 渡寄附金一〇〇〇〇〇〇圓三 スル百分ノ 寄附者ニ對スル記念品費其ノ他
		二 專業費	一 用地費	一八〇〇〇〇	
			二 補償費及 補地買收費	二五〇〇〇〇	用地約六〇〇〇〇年買收(補償費 共)費
			三 土木費	九〇〇〇〇	〇 參道柵型整備費 三〇〇〇〇圓 〇 各所廣場砂利敷(測溝共) 一五〇〇〇〇圓

I-0521

0515

科	款	項目	目	豫算額	附記
九	製材諸費	一	刊行費	四九〇〇〇〇	○製材收入四九〇〇〇〇圓
			二	造營誌其ノ他刊行費	二〇〇〇〇〇
八	刊行費	一	祭典及	二〇〇〇〇〇	
			二	直會費	二〇〇〇〇〇
七	祭典費	一	神寶費	二〇〇〇〇〇	
			二	諸調度費	三〇〇〇〇〇
六	神寶及諸調度費	一	附屬設備費	一四〇〇〇〇〇	○上水道設備費 ○防火施設費 ○參道照明其ノ他
			二	神寶費	二〇〇〇〇〇

三	林苑費	一	地均其ノ他整備費	九〇〇〇〇	○境内周圍整備費 ○苑路其ノ他整備費
			二	林苑整理及植樹費	一九〇〇〇〇
四	建築費	一	樓門其ノ他工物建設費	二一〇〇〇〇	○樓門、脇門外廻廊建設費 ○貴賓殿、職舎建設費 ○外玉垣其ノ他建設費
			二	山林並ニ苑地整理費其ノ他	一九〇〇〇〇
五	附屬設備費	一	主要地域植樹費	六〇〇〇〇〇	
			二	其ノ他	一四〇〇〇〇〇

I-0521

0516

支 出 合 計	四 豫備費			一 原木購入費	三 一六〇〇〇 臺灣產扁柏原木 單價 一立米購入
	一 豫備費	一 勤勞奉仕隊 接遇費	七 勤勞奉仕隊 接遇費	二 運搬費	九 一〇〇〇〇
	四〇〇〇〇	四〇〇〇〇	四〇〇〇〇	八 一〇〇〇〇	機械設備其ノ他
	四〇〇〇〇	一 雜設備費			三 一〇〇〇〇 圓
	一 三〇〇〇〇				一 〇〇〇〇 圓
	一 三〇〇〇〇				
	一 三〇〇〇〇				
	一 三〇〇〇〇				

I-0521

05 17

扶餘神宮奉贊會收支豫算説明書

收入

第一款 寄附金

別添扶餘神宮奉贊會寄附金募集要領ニヨリ公共團體其ノ他ヨリ總額百一十萬圓ヲ募集セントス

第二款 受入金

扶餘神宮忠清南道奉贊會ニ於テ集纏ノ三十萬圓ヲ受入經理セントス

第三款 製材收入

國及奉贊會ニ於テ必要ノ御用材ヲ臺灣ヨリ原木ノ儘購入シ製材ノ上實費ヲ以テ國ニ其ノ所要量ヲ分讓スルコトトシ之ガ代金收入ヲ見込ミタリ

第四款 雜收入

預金利子及不用品賣却代ヲ見込ミタリ

支出

第一款 事務費

第一項 職員費

第一目 給料 本會ノ庶務及會計事務ニ從事セシムベキ書記一名採員ノコトトシ之ガ要費ヲ見込ミタリ

第二目 雜給 造營ニ關スル技術ニ從事セシムベキ專任囑託三名雇員

六名及前掲書記ノ補助者タル專任事務雇員一名ヲ採員ノコトトシ之ガ手當、給與ヲ夫々計上シタル外造營ノ圖滑ナル進捗ヲ期スル爲新界ノ權威者及本府並ニ奉

地タル忠清南道職員ニ付土工、林苑、建築等ノ事務ヲ
ハ技術ヲ委囑スルコトトシ之等ニ對スル手當ヲ計上シ
タルト工專現場ニ於ケル事務及技術ニ關シ臨時ニ備入
ノ要アルベキヲ以テ之ガ所要經費ヲ見込ミタル外本會
職員ノ出張及赴任ニ對スル旅費並ニ專任職員ニ對スル
臨時家族手當、年末慰勞金等其ノ所要額ヲ夫々見込ミ
タリ

第二項 需用費

本會事務處理上ニ要スベキ需用費ヲ見込ミタリ

第三項 雜支出

第一目 交付金 寄附金募集取扱費トシテ各道支部ニ對シ其ノ支部一

般寄附金募集額ノ百分ノ二相當額ヲ交付スルコトト
シ之ガ要費ヲ見込ミタリ

第二目 雜費 寄附者ニ對スル記念品贈呈所蒙經費其ノ他事務用諸雜

費ヲ見込ミタリ

第二款 會議費

第一項 會議諸費

評議員會等ニ關スル諸費ヲ必要トスルニ由リ之ガ所要額ヲ見込ミタリ

第三款 專業費

第一項 用地費

用地約六萬坪ノ買收費及補償費ヲ見込ミタリ

第二項 土木費

參道構型整備、各所廣場砂利敷境內周圍整備其ノ他土木工事費ヲ同
多ク

第三項 林苑費

主要地域植樹費、山林並ニ苑地整理費其ノ他ヲ見積リタリ

第四項 建築費

樓門、脇門、外廻廊、貴賓殿、職舎、外玉垣、左右舞臺其ノ他小建
及假設物ノ建築費ヲ見積リタリ

第五項 附屬設備費

上水道設備、防火施設、參道照明其ノ他諸設備費ヲ見込ミタリ

第六項 神寶及諸調度費

神寶及貴賓殿其ノ他ノ調度費ヲ見積リタリ

第七項 祭典費

工事ニ關スル諸祭典ニ要スル經費ヲ見積リタリ

第八項 刊行費

遊覽誌其ノ他ヲ刊行スルコトトシ之ガ所要經費ヲ見積リタリ

第九項 製材諸費

神宮御用材製材ニ要スベキ臺灣産扁柏原木二千六百立米ノ購入費、
灣ヨリ現地扶餘迄ノ原木運搬費、並ニ製材工場建設費、動力費其ノ他
製材ニ要スル諸雜費ヲ計上セリ

第十項 勤勞奉仕隊接遇費

該隊神宮御造營勤勞奉仕員ノ接遇ニ要スベキ諸設備費及雜費ヲ見積リ
タリ

第四款 豫備費

豫算超過支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設ケ其ノ所要額ヲ見積リケリ

I-0521

0521

朝鮮總督府			
三 雜支出	四〇〇〇〇〇	一四九八八	三九八〇二
六 交付金	二〇〇〇〇	一一一	一九八八九
二 雜費	二〇〇〇〇	三八七九	一九九六三
會議費	三〇〇〇		二〇〇〇〇
一 會議諸費	三〇〇〇		二〇〇〇〇
三 事業費	一八〇〇〇〇	四〇〇一三	五九六三
一 用地費	二五〇〇〇		二五〇〇〇
用地買収	二五〇〇〇		二五〇〇〇
補償費	二五〇〇〇		二五〇〇〇
三 土木費	九〇〇〇〇		九〇〇〇〇
地均其他	九〇〇〇〇		九〇〇〇〇
整備費	九〇〇〇〇		九〇〇〇〇
三 林苑費	一九〇〇〇〇	一八	一九九八一〇
林苑整理	一九〇〇〇〇	一八	一九九八一〇
反植諸費	一九〇〇〇〇	九〇	一九九八一〇
四 建築費	五一〇〇〇〇		五一〇〇〇〇
修門其他工	五一〇〇〇〇		五一〇〇〇〇
作物建設費	五一〇〇〇〇		五一〇〇〇〇
五 府庫設備費	一四〇〇〇〇		一四〇〇〇〇
府庫建設物	一四〇〇〇〇		一四〇〇〇〇
六 神宮反諸	五〇〇〇〇		五〇〇〇〇
神宮反諸	五〇〇〇〇		五〇〇〇〇
二 神宮費	二〇〇〇〇		二〇〇〇〇
三 諸調度費	三〇〇〇〇		三〇〇〇〇
八 祭典費	二〇〇〇〇		二〇〇〇〇
祭典反直	二〇〇〇〇		二〇〇〇〇
會費	二〇〇〇〇		二〇〇〇〇
八 刊行費	二〇〇〇〇		二〇〇〇〇
刊行費	二〇〇〇〇		二〇〇〇〇
九 裁判諸費	四九〇〇〇〇	一七〇〇	三〇八〇九九
裁判諸費	四九〇〇〇〇	一七〇〇	三〇八〇九九

取捨(谷岡勝)

I-0521

0523

朝鮮總督府 一全四萬四千七百九拾四圓四拾錢寫	支出合計	二〇〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇
	一 豫備費		四〇〇,〇〇〇						
	二 勤勞奉仕隊 一 接過費			四〇〇,〇〇〇					
	二 勤勞奉仕隊 二 諸雜費			四〇〇,〇〇〇					
	三 運搬費				四〇〇,〇〇〇				
	四 水購費					四〇〇,〇〇〇			
收入		二,〇〇〇,〇〇〇							
支出		二,〇〇〇,〇〇〇							
差引		〇							
高									

京城(查詢稿)

I-0521

0524

イ 扶餘神宮奉贊會寄附金募集要領

寄附金ハ(一)公共團體等寄附金(二)特殊寄附金(三)一般寄附金ノ三種トシ左ノ區分ニ依リ之ヲ募集スルモノトス但シ忠清南道ニ於テハ既ニ忠清南道奉贊會ヲ組織シ道内官民ヨリ四十萬圓ノ寄附ヲ募集シ其ノ事業ハ本會成立ノ上本會ニ合流スル豫定ナルヲ以テ該道ニハ本寄附金ノ割當ヲ爲サザルモノトス

(一)公共團體等寄附金

道	各三〇〇〇圓	一、二道	三六〇〇〇圓
京城府			三〇〇〇圓
平壤、釜山、仁川、大邱、清津各一、〇〇〇圓			五〇〇〇圓

其ノ他ノ府(城津ヲ含ム)各五〇〇圓	十四府	七〇〇〇圓	
興南邑		五〇〇圓	
其ノ他ノ邑	各一〇〇圓	八五邑	八五〇〇圓
面	各三〇圓	二〇七六面	六二二八〇圓
金融組合	各五〇圓	六七四	三三七〇〇圓
合計			一五、五九八〇圓

(二)特殊寄附金

(1)官吏		
勅任官待遇者	俸給(加給ヲ含ム以下同シ)月額ノ百分ノ三	
奏任官待遇者	同	百分ノ二
判任官待遇者	同	百分ノ一

(四) 公共團體吏員 (除邑面吏員)

年 俸 者 俸給 (加俸ヲ含ム以下同ジ) 月額ノ百分ノ二

月 俸 者 同 百分ノ一

(ハ) 雇員及邑面吏員 同 百分ノ〇五

(ニ) 嘱託員ハ其ノ實際上ノ待遇ニ依リ前例ニ準ズ

(ホ) 傭人ハ任意トス

(ヘ) 學生、生徒、兒童

大學學生及專門學校生徒 十 錢

中等學校生徒 五 錢

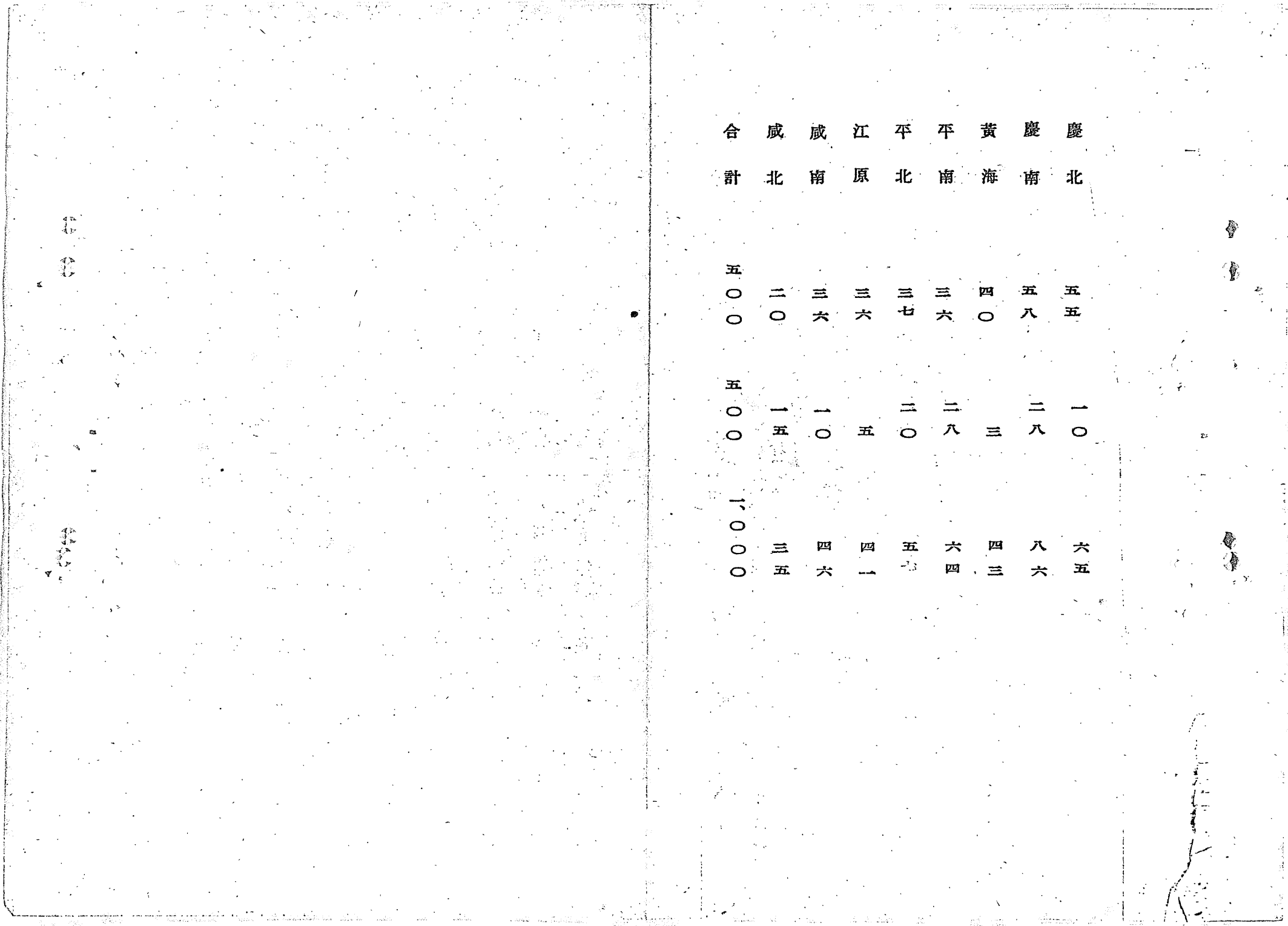
兒童 一 錢

此 豫 算 額 五 五 〇 〇 〇 圓

(三) 一般寄附金

一般寄附金ハ豫算額百三十萬圓中忠清南道奉贊會ニ於テ募集ニ係ル四十萬圓中本會計畫事業費相當額三十萬圓ヲ控除シ百萬圓ヲ忠清南道ヲ除ク各道ニ割當テ募集スルモノトシ其ノ配當比率ハ護國神社奉贊會一般寄附金募集割當ノ例ニ依リ左ノ如クスルモノトス

	戸數割	法人割	計
京畿	六四	三五九	四二三
忠北	二〇	一	二一
全北	三六	八	四四
全南	六二	一三	七五



合計	威北	威南	江原	平北	平南	黄海	慶南	慶北
五〇〇	二〇	三六	三六	三七	三六	四〇	五八	五五
五〇〇	一五	一〇	五	二〇	二八	三	二八	一〇
一〇〇〇	三五	四六	四一	五七	六四	四三	八六	六五

I-0521 |

0521

十二 發起人名簿

政務總監	大野	綠一郎
內務局長	上	瀧
財務局長	水田	直昌
殖産局長	穂積	眞六郎
農林局長	湯村	辰次郎
法務局長	宮本	元
學務局長	眞崎	長年
警務局長	三橋	孝一郎
逓信局長	新貝	肇
鐵道局長	山田	新十郎

專賣局長	松澤	龍
企畫部長	西岡	芳次郎
外事部長	諏訪	務
審議室 首席事務官	碓井	忠平
人事課長	伊藤	泰吉
文書課長	信原	聖
總力課長	柳生	繁雄
會計課長	柳生	繁雄
京畿道知事	鈴川	壽馬
忠清北道知事	伊藤	泰

忠清南道知事	松村	基以
全羅北道知事	李家	源甫
全羅南道知事	武永	憲樹
慶尙北道知事	高橋	敏
慶尙南道知事	山澤	和三郎
黃海道知事	金村	泰男
平安南道知事	石田	千太郎
平安北道知事	高	安彦
江原道知事	高尾	甚三
咸鏡南道知事	丹下	郁次郎
咸鏡北道知事	大野	謙一

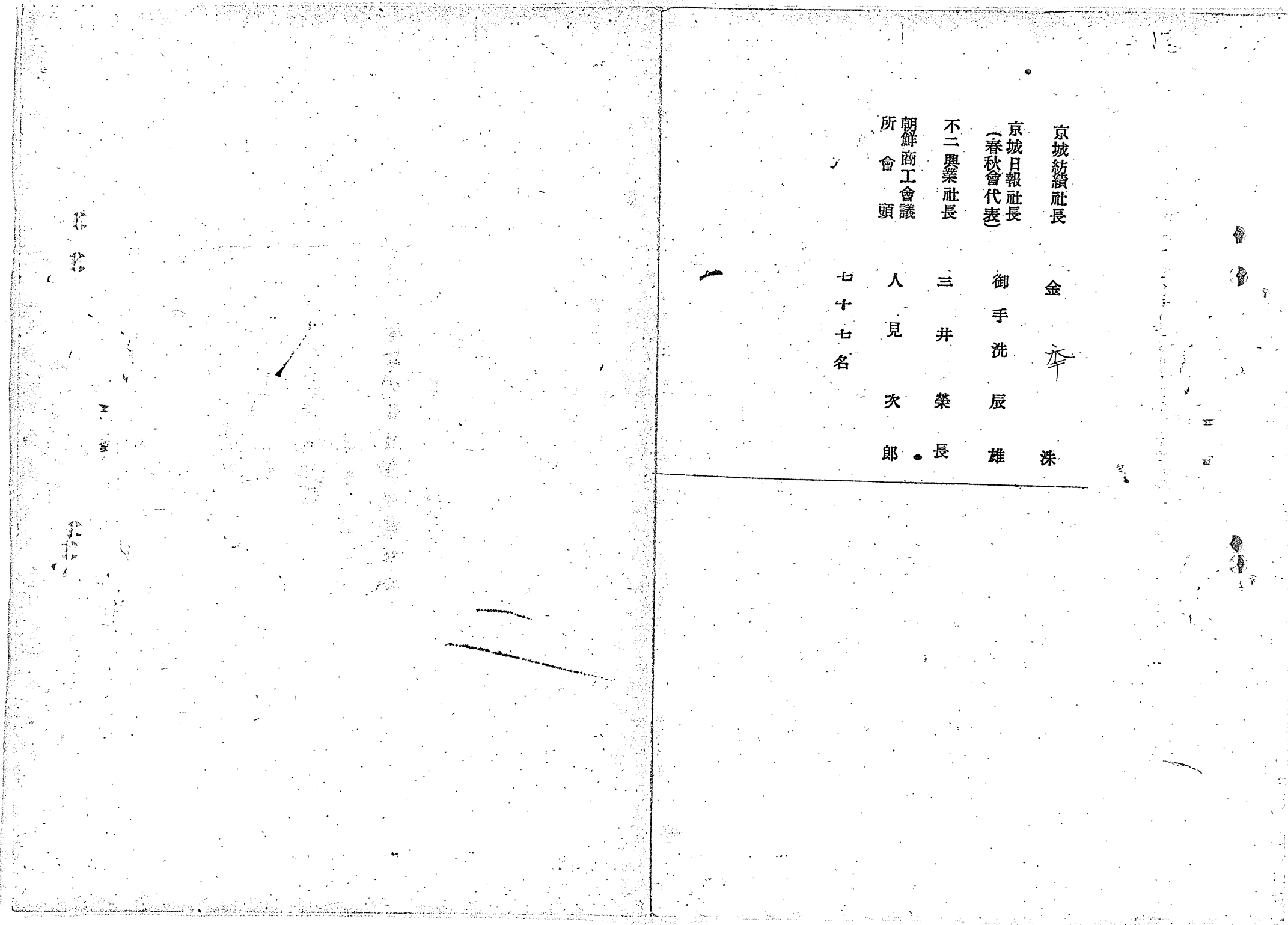
京城府尹	矢野	桃郎
城太總長	篠田	治策
李王職長官	李	恒九
總力聯盟 事務局總長	川岸	文三郎
總力聯盟 專務理事	烏川	橋源
朝鮮軍參謀長	高橋	地
鎮海要港部 參謀長	安藤	榮鏡
朝鮮憲兵隊 司令官	加藤	泊治郎
帝國在鄉軍人 會聯合會長 (京城)	森本	伊市郎

帝國在郷軍人 會聯合會長 (羅南)	朝鮮比子總代 聯合會長	基督教青年 會 長	朝鮮米穀倉庫 社 長	殖産銀行頭取	朝鮮鑛業振興 社 長	漢江水電專務	和信社長
内山 彌一	石原 磯次郎	伊東 致 吳	石 塚 峻	林 繁 藏	萩 原 彦 三	林 茂 樹	朴 興 植

中樞院參議	林業開發 社 長	東京京城 電在選事	朝鮮放送 協會 長	鐘紡京城 支店 長	朝鮮生命 保險社 長	每日新報社長	朝鮮信託社長 (水産會代表)
朴 澤 相 駿	渡 邊 豊 日子	上 内 彦 策	甘 麓 義 邦	片 岡 勉	韓 相 龍	金 川 聖	谷 多 喜 麿

朝鮮土木 協會 長	中樞院參議	龍山工作社長	鮮滿拓殖理事	京電專務	朝鮮電力專務	中樞院參議	朝鮮鑛業社長	朝鮮畜産社長	南鮮合同 電氣社長
伊 達 四 雄	高 元 勳	田 川 常 治 郎	浜 永 穆	武 者 鍊 三	井 上 清	井 垣 圭 復	岡 崎 哲 郎	岡 崎 哲 郎	小 倉 武 之 助

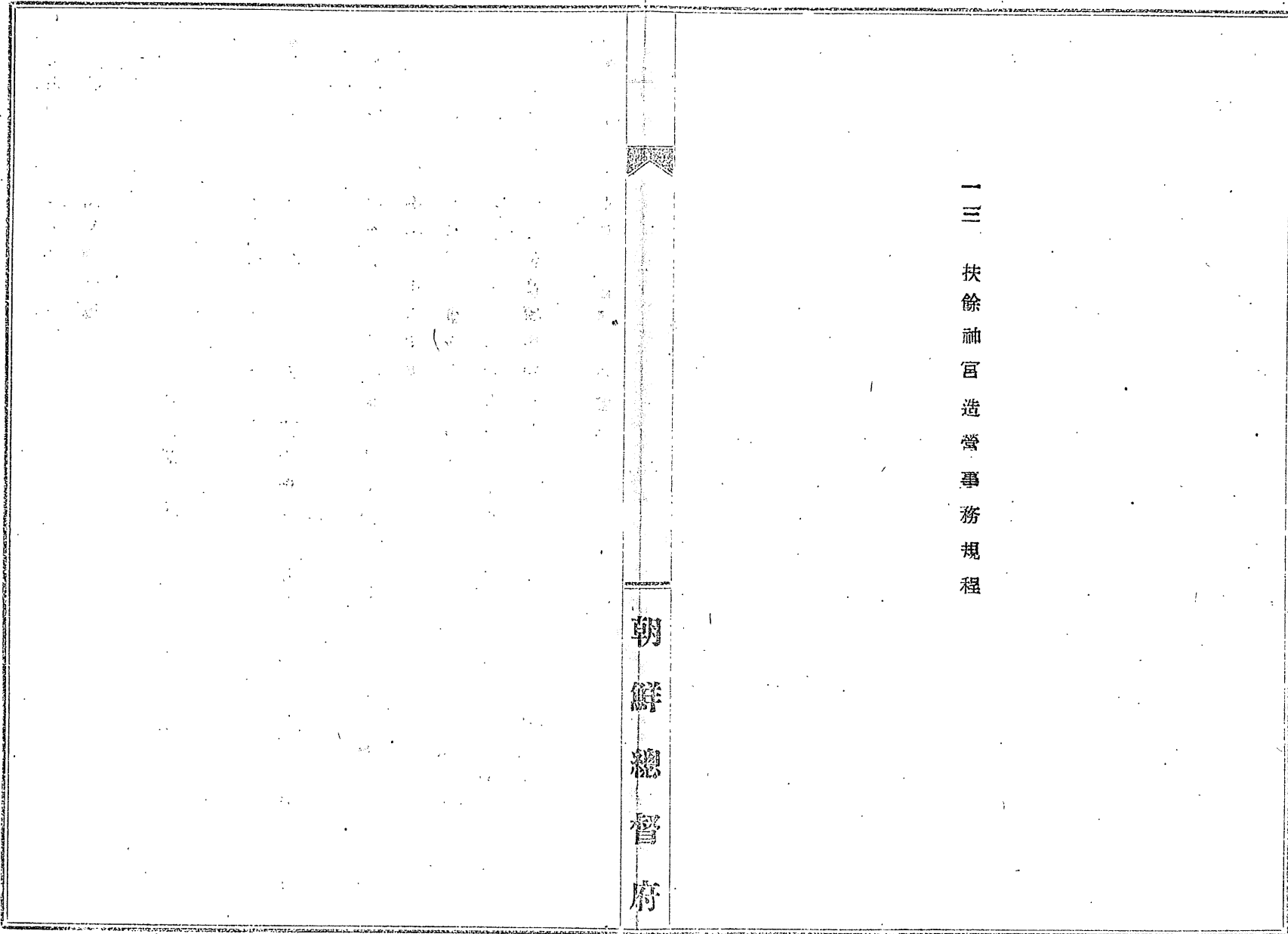
中川鑛業社長	朝鮮米穀 市場社長	朝鮮銀行總裁	朝鮮鑛業組合 聯合會 長	北鮮鑛業紙專務	日本産金振興 京城支社長	日本赤十字社 朝鮮本部 副 總 長	朝鮮マダネサ イム會社社長
矢 鍋 永 三 郎	矢 島 杉 造	松 原 純 一	松 本 孝 誠	藤 原 喜 藏	阿 部 千 一	佐 々 木 忠 右 衛 門	菊 山 時 權



朝鮮商工會議 所 會 頭	不二興業社長	京城紡績社長
人 見 次 郎	三 井 榮 長	御 手 洗 辰 雄
七 十 七 名		金 本 洙

I-0521

0530



一三 扶餘神宮造營事務規程

朝鮮總督府

日本標準規格 B1(564×257mm.) 表平堂紙

I-0521

0531

朝鮮總督府訓令第五十號
扶餘神宮造營事務規程左ノ通定ム
昭和十四年八月十八日

朝鮮總督 南 次 郎

扶餘神宮造營事務規程

- 第一條 朝鮮總督府ニ扶餘神宮造營委員會及扶餘神宮造營事務局ヲ置ク
- 第二條 扶餘神宮造營委員會ハ朝鮮總督ノ諮問ニ應ジ扶餘神宮ニ關スル重要事項ヲ調査審議ス
- 第三條 委員會ハ委員長一人及委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス
- 第四條 委員長ハ朝鮮總督府政務總監ヲ以テ之ニ充ツ委員ハ朝鮮總督府部内高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ朝鮮總督之ヲ命ジ又ハ囑託ス
- 第五條 委員長ハ會務ヲ總理ス

朝鮮總督府

- 委員長事故アルトキハ委員長ノ指定シタル委員其ノ事務ヲ代理ス
- 第六條 扶餘神宮造營事務局ニ於テハ扶餘神宮造營ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第七條 事務局長ハ朝鮮總督府内務局長ヲ以テ之ニ充ツ
- 第八條 扶餘神宮造營事務局ニ顧問ヲ置ク學識經驗アル者ノ中ヨリ朝鮮總督之ヲ囑託ス
- 第九條 顧問ハ事務局長ノ諮問ニ應ズ
- 第十條 扶餘神宮造營事務局ニ總務部、經理部、工營部及扶餘出張所ヲ置ク
- 第十一條 總務部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 造營計畫ニ關スル事項
 - 二 奉贊事業ニ關スル事項
 - 三 祭典儀式ニ關スル事項
 - 四 神寶調製ニ關スル事項
 - 五 殿内舗設ニ關スル事項

日本標準規格 B4(364 x 505mm.) 六等倍縮

朝鮮總督府

- 六 扶餘神宮造營委員會ニ關スル事項
- 七 他ノ主管ニ屬セザル事項
- 第十二條 經理部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 造營費豫算決算ニ關スル事項
 - 二 工事ノ請負、物件ノ購買、其ノ他契約ニ關スル事項
 - 三 其ノ他ノ會計ニ關スル事項
- 第十三條 工營部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 工事ノ請計ニ關スル事項
 - 二 工事ノ執行ニ關スル事項
 - 三 工事ノ検査監督ニ關スル事項
- 第十四條 扶餘出張所ニ於テ掌理スベキ事務ノ範圍ハ事務局長之ヲ定ム

日本標準規格 B1(204 x 287mm.) 表2442 抄

I-0521

0533

朝鮮總督府

一四
扶餘神宮造營事務局造營委員會及扶餘神宮

日本標準規格 B1(361×257mm.) 太平堂製

I-0521

0534

朝鮮總督府

◎ 扶餘神宮造營委員會役員

委員長 朝鮮總督府政務總監 大野 綠一郎

委員 朝鮮總督府司政局長 鈴川 壽男

同 財務局長 水田 直昌

同 殖産局長 上 灌 基

同 農林局長 山 澤 和三郎

同 學務局長 眞 崎 長年

同 警務局長 三 橋 孝一郎

同 鐵道局長 山 田 新十郎

同 忠清南道知事 松 村 基弘

東京帝國大學文學部教授 宮 地 直一

神祇院造營課長 角 南 隆

神祇院考證課長 阪 本 廣太郎

神祇院囑託 本 郷 高德

◎ 扶餘神宮造營事務局役員

局長 朝鮮總督府司政局長 鈴川 壽男

顧問 東京帝國大學文學部教授 宮 地 直一

神祇院造營課長 角 南 隆

神祇院考證課長 阪 本 廣太郎

神祇院囑託 本 郷 高德

一五 寄附金募集許可書寫

朝鮮總督府

京城(谷田橋)

I-0521

0536

警第五八三第

扶那神道奉賛會長 大野謙一郎

昭和十六年五月二十九日附申請扶那神道造営資金中白
二十萬圓寄附金募集ノ件許可ス

昭和十六年七月九日

朝鮮統督

南

次郎

印

朝鮮總督府

京城(谷町)

I-0521

0530

一六 事業 設備 新設 許可 書寫

朝鮮總督府

京城(谷洞納)

I-0521

0538

扶餘神宮奉贊會長 大野瑞一郎

昭和十六年八月二十日附申請事業款備新款ノ件臨時資

全調整法第四條ノ二ノ規定ニ依リ申請書記載ノ條項

ニ基キ許可ス

昭和十六年十月十日 朝鮮總督 南次郎

朝鮮總督府

京城(谷岡橋)

I-0521

0539

饒餘神宮御祭神ノ御事蹟

應神天皇 (第十五代)

紀元	年次	事
九三六年	七年	秋九月、高麗人、百濟人、新羅人、來朝ス。武内宿禰ニ命ジテ、之ヲ率キテ池ヲ作ラシム。(書紀、古事記)
九三七、九四三、九四四年	八年、一四年、一五年	春三月、百濟人來朝ス。(書紀) 春二月百濟王、縫衣工女眞毛津(來目衣縫ノ祖)ヲ貢ル。是歲、弓月君百濟ヨリ歸化ス(書紀、古語拾遺) 秋八月丁卯、百濟王、阿直岐(阿知吉師)ヲ遣シテ、良馬ヲ貢ル。阿直岐能ク經典ヲ讀ム。皇子菟道稚郎子之ヲ師トシ給フ。天皇王仁ヲ召シ給フ。
九四五、九四八年	一六年、三九年	(書紀、古事記) 春二月、王仁(和禰吉師)來朝ス。皇子菟道稚郎子之ヲ師トシ給フ。(書紀、古事記、古語拾遺) 王仁論語千字文ヲ齊シ貢進ス。又韓鍛、吳服等歸化ス(古事記) 是歲、百濟阿花王薨ス。天皇王子直支ヲ國ニ送還シテ位ヲ嗣ガシメ、仍リテ東韓之地ヲ賜フ(書紀) 春二月、百濟直支王、其ノ妹新齊都媛ヲ遣シ、婦女七十人ヲ率キテ來リ朝廷ニ仕ヘシム。(書紀)
一三二五年	明元年	齊明天皇 (第三十七代) 秋七月己卯、天皇百濟ノ調使百五十人ヲ饗シ給フ。是歲、又高麗百濟新羅ノ調使來ル(書紀)

一三二六年

二年

是歲、高麗、百濟新羅ノ調使來ル。天皇飛鳥原本ノ宮ニ饗シ給フ。是歲膳臣葉積等ヲ高麗ニ遣シ給フ。(書紀)

一三二〇年

六年

九月癸卯、百濟ノ使達率某、沙彌覺從等來ル。新羅カラ特ミ百濟ヲ攻メ王ヲ俘ニス西部恩率鬼室福信、國ノ復興ヲ圖ルヲ奏ス、十月福信等唐軍ノ俘百餘人ヲ獻リ、師ヲ乞ヒ救ヲ請ヒ王子余豐璋ノ送還ヲ奏請ス。乃チ天皇詔シテ、百濟救援ノ事ヲ諭シ給ヒ、十二月庚寅難波宮ニ幸シ、百濟ノ乞ヲ容レテ、筑紫ニ幸セムトシ、駿河ノ國ニ命ジテ船ヲ造ラシメ給フ。(書紀)

一三二一年

七年

春正月壬寅、天皇御西征ノタメ難波ヲ御進發アラセラル。四月、百濟ノ鬼室福信使ヲ遣シ表ヲ上リテ王子紀解ヲ迎ヘンコトヲ乞フ。

一三二二年

天智天皇

元年

皇 (第三十八代)

春正月丁巳、百濟ノ佐平鬼室福信ニ矢十萬隻、絲五百斤、絹一千斤、布一千疋、韋一千張、稻種三千斛ヲ賜フ。三月癸巳、百濟王ニ布三百疋ヲ賜フ。

五月癸卯、天皇筑紫ノ朝倉宮ニ遷幸アラセラル。

七月丁巳、天皇朝倉宮ニ崩ス。

皇太子(天智天皇)長津宮ニ遷リテ海表ノ軍政ヲ

聽キ給フ。八月、前將軍阿曇比邊夫連、後將軍阿

倍引田比邊夫臣等ヲ遣ハシテ百濟ヲ救ハシメ給フ。

○

九月、百濟王子豐璋ニ冠位ヲ授ケ、多臣蔭敷ノ妹

ヲ之ニ妻シ、將ヲ遣ハシテ、軍五千餘人ヲ以テ、

之ヲ本國ニ送還セシメ給フ。(書紀、家傳謙足傳)

一、三二三年

二年

是月、高麗王ニ攻メラレテ援ヲ乞フ仍テ將ヲ遣シ之ヲ救フ唐之ヲ以テ南界ヲ攻略スルコトヲ得ズ。夏五月、大將軍大錦中阿曇比羅夫連等ニ船師百七十艘ヲ率キシメ、豐璋等ヲ百濟國ニ送リ、王位ヲ繼ガシメ、鬼室福信ニ爵祿ヲ賜フ。宋流涕セザルナシ。六月丙戌百濟ノ調使來ル。(書紀、三國史記)

二年

春二月丙戌、百濟ノ調使來ル。(書紀)

是歲新羅唐ノ援ヲ得テ百濟ヲ攻略ヤムトス。

秋八月戊申、我カ救援軍百濟ノ白村江ニ於テ唐及新羅ノ軍ト合ヒ、戰ヒテ利アラズ。我カ將朴市田來津戰死。

豐璋王高麗ニ走リテ百濟全ク亡フ。九月乙亥、我カ船師百餘ノ遺臣ヲ伴ヒ發船シテ日本ニ向フ。(書紀、三國史記、唐書舊唐書)

一、三二四年

三年

夏五月甲子、唐將劉仁願ノ使者來朝シ餉ヲ獻ズ。(書紀、善隣國寶記)

一、三二五年

四年

春二月、百濟ノ遺臣鬼室集斯ニ冠位ヲ授ケ、マダ百濟ノ遺民男女四百餘人ヲ近江國前郡ニ置キ、翌月田ヲ賜フ。

九月壬辰、唐使劉德高來ル。十二月辛亥、守君大石等ヲ唐ニ遣シ給フ。(書紀)

一、三二六年

五年

春正月戊寅、高麗ノ調使來ル。冬十月己未、又來朝ス。是冬、百濟ノ遺民二千餘人ヲ東國ニ假キ官食ヲ賜フ。(書紀)

一、三二七年

六年

十一月乙丑、唐將ノ使者來ル。己巳伊吉博德等ヲシテ、其ノ還ルヲ送ラシメ給フ。翌年博德等歸ル。(書紀)

一、三二八年

七年

秋九月癸巳、新羅ノ調使金東殿等來ル。十一月乙

酉、小山下守臣麻呂等ヲシテ其ノ還ルヲ送リテ
新羅ニ到ラシメ給フ。(書紀)

神功皇后

八六〇年
仲哀天皇九年

冬十月辛丑、神功皇后舟師ヲ率キテ新羅ニ到リ給フ。

國王戰ハズシテ降リ、服屬ヲ誓フ。乃チ高麗、新羅ノ王亦來リ服シ、朝貢ヲ誓フ。皇后三韓(高麗、百濟、新羅)ヲ内宮家ト定メ給フ。(書紀、古事記、古語拾遺)

八六五年
神功皇后攝政五年

春三月己酉、新羅王汗禮斯伐等ヲ遣シテ朝貢ス。皇后葛城襲津彦ヲ遣シ給フ。(書紀)

九〇七年
同四十七年

夏四月、百濟王久氏、彌州流、莫古ヲ遣シテ朝貢セシム。新羅ノ調使久氏等ト共ニ來ル。(書紀)

九〇九年
同四十九年

春三月、荒田別及鹿我別ヲ將軍トシ久氏等ト共ニ新羅ヲ討タシメ給フ。終ニ南蠻、枕彌多禮ヲ屠リ、サキテ百濟ニ賜フ。乃チ百濟王肖古及比王子貴須荒田別等ト意流村ニ會見シテ厚禮ス。千熊長彦百濟ニ到リ、辟支山ニ登リテ國王ト盟ビ、又古沙山ニ登リ磐石ノ上ニ共ニ居リ、永ク春秋ニ朝貢セムコトヲ誓ハシム。(書紀)

九一〇年
同五〇年

春二月、荒田別等還ル。夏五月千熊長彦ヲ送リテ、百濟ノ使久氏等來リ、鴻澤ヲ謝ス。皇后往還ノ驛トシテ多沙ノ城ヲ増賜シ給フ。(書紀)

九一一年
同五一年

春三月、百濟王又久氏等ヲ遣シテ朝貢ス。皇后百濟ノ誠款ヲ嘉賞シ給ヒ、千熊長彦ヲ久氏ニ副ヘテ百濟ニ遣ス(書紀)

九一二年
同五十二年

秋九月丙子久氏等千熊長彦ニ從ヒテ來リ、七枝刀

一、口、七子鏡一面及ヒ種々ノ重寶ヲ狀リ、谷那岐
山ノ鐵ヲ貢ヤンコトヲ奏ス。(書紀)

I-0521

0544

扶餘神宮奉贊會

會 趣 意 書
專 業 計 畫 書

I-0521

0545

扶餘神宮奉贊會設立趣意書

恭しく惟るに

應神天皇

齊明天皇

天智天皇

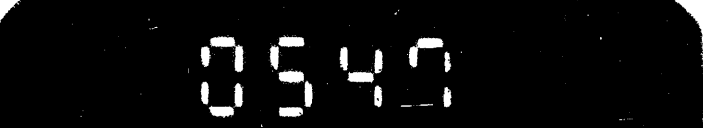
神功皇后

は、畏くも深く大御心を内鮮の共榮に致させ給ひ、一視同仁の聖化半島に普く、
彼此の文化は交流し、民族は融合して一家の親を致し、相倚り相助けて共存の實
大いに擧り、永く萬世に亘つて内鮮一體の鴻範を垂示し給へり。
爾來春秋幾百千、半島官民今に及んで追仰措かず、乃ち速に御神靈を奉じて斯土

に鎮祭し、厚く報本反始の禮典を致すと共に、永く神明の加護を乞はむことを所念し奉りしに、畏くも昭和十四年六月十五日を以て、内鮮の縁由最も深き百濟の故都忠清南道扶餘郡扶餘面に、彼上御四柱の神々を奉齋すべき、官幣大社扶餘神宮を御創立在らせらるる旨 仰出さる。聖慮深遠眞に恐懼に禁へず
茲を以て朝鮮總督府に於ては 聖旨を畏み國帑を以て之が御造營を企圖せりと雖
惟ふに此の種事業は官民一致の協賛に依りて神威彌々赫き、神德昭々、永く民風
教化の本源たるを得べし
仍て有志相謀り、扶餘神宮奉贊會を組織して、廣く獻資を募り、神宮奉建の御事
業を翼贊し奉らむとす
冀くば江湖諸彦、趣旨御贊同の上奮つて贊助賜らむことを

發起人 (イロハ順)

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同



會員ノ種別左ノ如シ

特別名譽會員 金一萬圓以上寄附シタル者又ハ本會ニ對シ特別ノ功勞アル者

名譽會員 金五千圓以上寄附シタル者

特別會員 金千圓以上寄附シタル者

正會員 金百圓以上寄附シタル者

贊助會員 金十圓以上寄附シタル者

準會員 金十圓未満寄附シタル者

造營物其ノ他ノ物件ヲ寄附シタルモノニ付テハ其ノ評定價格ヲ以テ前項ノ寄附金額ト看做ス

第七條 本部ニ左ノ役員ヲ置ク

總裁

會長

副會長

評議員

幹事長

幹事

第八條 支部ニ左ノ役員ヲ置ク

支部長

副支部長

幹事

第九條 委員會ニ左ノ役員ヲ置ク

委員長

委員

第十條 役員ハ名譽職トス

第十一條 本部及支部ニ有給ノ職員ヲ置クコトヲ得

第十二條 總裁ハ朝鮮總督ヲ推戴ス

第十三條 會長ハ朝鮮總督府政務總監ヲ推戴ス

第十四條 本部役員及支部長ハ會長之ヲ委屬ス

第十五條 支部及委員會ノ役員ハ支部長之ヲ委屬ス

第十六條 職員ハ會長又ハ支部長之ヲ命ズ

第十七條 總裁ハ會務ヲ總攬ス

第十八條 會長ハ會務ヲ統理シ本會ヲ代表ス

第十九條 副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキハ會長ノ指定シタル者之ヲ代理ス

第二十條 評議員ハ評議員會ヲ組織シ本會ノ重要事項ヲ議決ス

評議員會ノ議決ヲ經ベキ事件ニシテ輕易ナルモノハ書面ヲ以テ評議員ノ意見ヲ聽キ評議員會ノ議決ニ代

七

ブルコトヲ得

第二十一條 幹事長ハ會長ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌理ス

第二十二條 本會ニ顧問ヲ置クコトヲ得總裁ノ諮問ニ應ズルモノトス

第二十三條 支部長ハ會長ノ命ヲ承ケ支部ノ事務ヲ掌理ス

第二十四條 副支部長ハ支部長ヲ輔佐シ支部長事故アルトキハ支部長ノ指定シタル者之ヲ代理ス

第二十五條 幹事ハ上司ノ命ヲ承ケ本部又ハ支部ノ事務ヲ分掌ス

第二十六條 委員長ハ支部長ノ命ヲ承ケ委員部ノ事務ヲ掌理シ委員ハ委員長ノ指揮ヲ承ケ事務ニ従事ス

第二十七條 職員ハ上司ノ命ヲ承ケ事務ニ従事ス

第二十八條 本會ハ會計年度ヲ設ケズ本會ノ事業期間ヲ通シテ一會計トス

第二十九條 本會ノ經費收支豫算ハ評議員會ノ議決ヲ經テ之ヲ施行シ其ノ決算ハ評議員會ニ報告スルモノトス

第三十條 評議員會ハ會長之ヲ招集シ會長ヲ以テ議長トス

第三十一條 本會ノ資金ハ確實ナル金融機關ニ預入スベシ

第三十二條 本會ノ經費ヲ以テ造營又ハ取得シタル工作物並ニ土地其ノ他ノ物件ハ扶餘神宮ニ獻納スルモノトス

第三十三條 本會ノ收支決算ニ剩餘金ヲ生ジタル時ハ評議員會ノ議決ヲ經テ扶餘神宮ニ寄進スルモノトス

第三十四條 本則ヲ變更セントスルトキハ評議員會ノ議決ヲ經ルモノトス

第三十五條 本會ハ第四條ノ事業ヲ完成シ義務ノ整理ヲ結了シタルトキニ於テ解散ス

第三十六條 本則施行ニ關シ必要ナル事項ハ會長之ヲ定ム

扶餘神宮奉贊會專業計畫書

一金貳百萬圓也

内 譯

一、土地買収費

二五〇〇〇〇圓

移轉補償費共

二、土木工事費

九〇〇〇〇〇圓

三、林苑工事費

一九〇〇〇〇〇圓

四、建築工事費

五一〇〇〇〇〇圓

樓門、脇門、外廻廊、貴賓殿職舎其ノ他建設

五、諸設備費

一四〇〇〇〇〇圓

上水道、防火施設、參道照明其ノ他設備

六、神寶調度費

五〇〇〇〇〇圓

七、祭典費

二〇〇〇〇〇圓

八、刊行費

二〇〇〇〇〇圓

九、事務費及會議費
 一〇、製材諸費
 (製材收入四九〇,〇〇〇圓充當)
 一一、勤勞奉仕隊接遇費
 一二、豫備費
 (内一〇〇,〇〇〇圓雜收入充當)

一六四、四一六圓
 四九〇,〇〇〇圓

四〇〇,〇〇〇圓
 三五,五八四圓

本部役員

總裁 朝鮮總督府内(朝鮮總督) 小磯 昭
 會長 同 (政務總監) 田中 武雄
 副會長 京城(殖産銀行頭取) 林 繁
 同 (中樞院副議長) 李家 鈞
 同 朝鮮總督府内(政務局長) 鈴木 壽
 同 同 (人事局長) 美根 五郎
 同 同 (文書局長) 渡邊 肆郎
 同 同 (情報局長) 倉島 至

幹事 朝鮮總督府内(會計課長) 森 長文
 同 (理事官) 遠藤 重太
 同 (同) 佐藤 良治
 同 (技師) 萩原 孝一
 同 (地方課長) 筒井 竹雄
 同 (國民總力課長) 大久保 清和
 同 (理事官) 河村 雅亮
 同 (事務官) 鈴木 重道
 同 (社會課長) 湯澤 茂彌
 同 (勞務課長) 林 勝壽

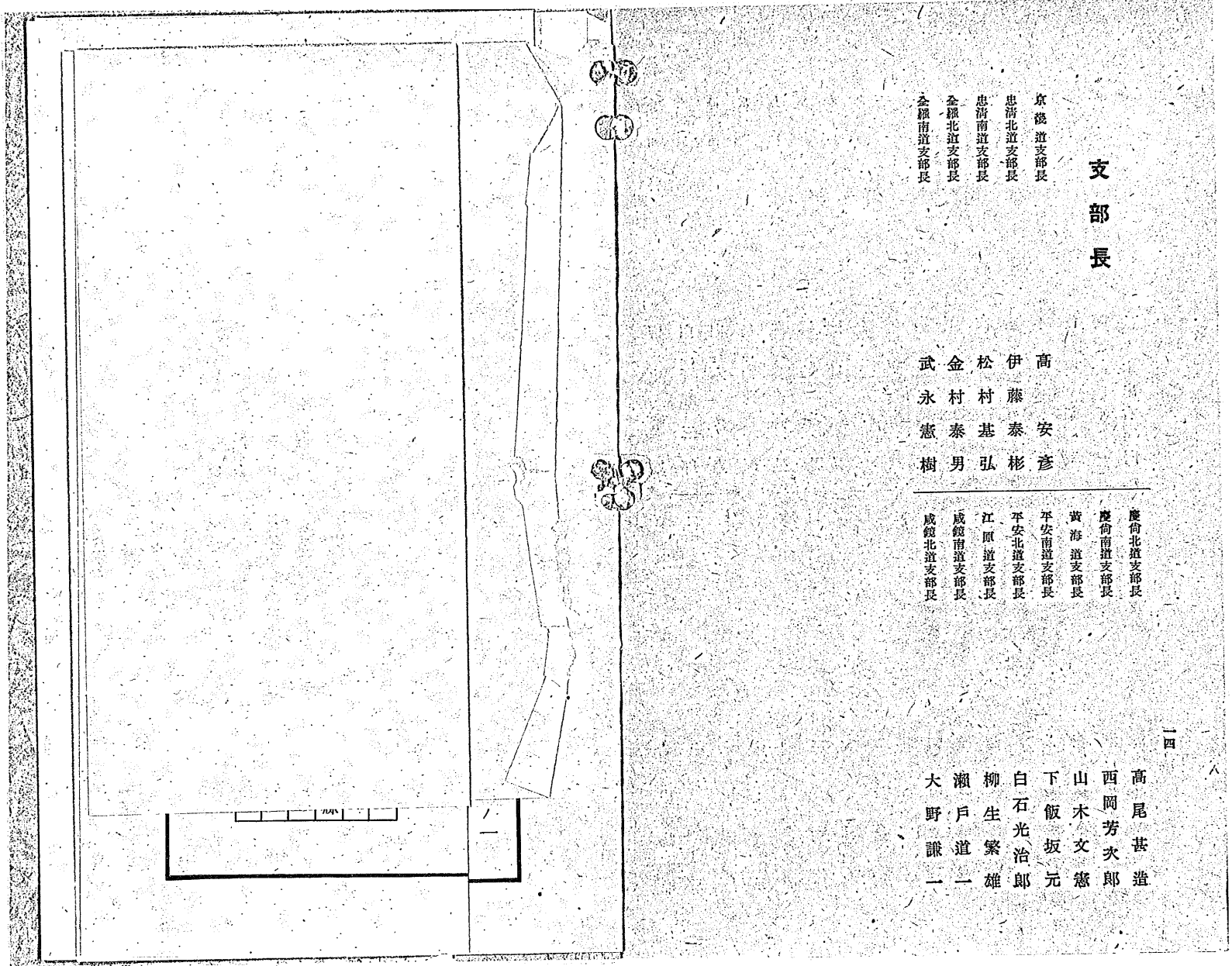
幹事 朝鮮總督府内(土木課長) 横井 増治
 同 (技師) 山岡 敬介
 同 (司計課長) 奥村 重正
 同 (理財課長) 辻 桂五
 同 (商工課長) 井坂 圭一
 同 (林政課長) 池田 清
 同 (技師) 福間 俊正
 同 (林業課長) 石田 常英
 同 (技師) 柴山 榮
 同 (民事課長) 岩島 肇
 同 (學務課長) 本多 武夫
 同 (社會教育課長) 桂 珖淳
 同 (警務課長) 八木 信雄
 同 (外務課長) 磯崎 廣行
 同 (企畫部計畫課長) 山名 酒喜男
 同 (逓信局庶務課長) 吉田 日出男
 同 (鐵道局庶務課長) 大島 寅治

幹事 朝鮮總督府内(憲兵局長) 水橋 武比古
 同 (海軍御用掛) 杉 剛
 同 (陸軍御用掛) 清水 孝太郎
 同 (朝鮮軍高級副官) 朝生 平四郎
 同 (憲兵隊副官) 中山 隆禮一

評議員 (イロハ順)
 伊藤 泰吉
 伊藤 泰彬
 伊藤 致吳
 石田 千太郎
 石原 磯次郎
 石塚 峻
 井上 清
 井垣 圭復
 波田 重三
 萩原 彦三

I-0521

055



支部長

京 畿 道 支 部 長
忠 清 北 道 支 部 長
忠 清 南 道 支 部 長
全 羅 北 道 支 部 長
全 羅 南 道 支 部 長

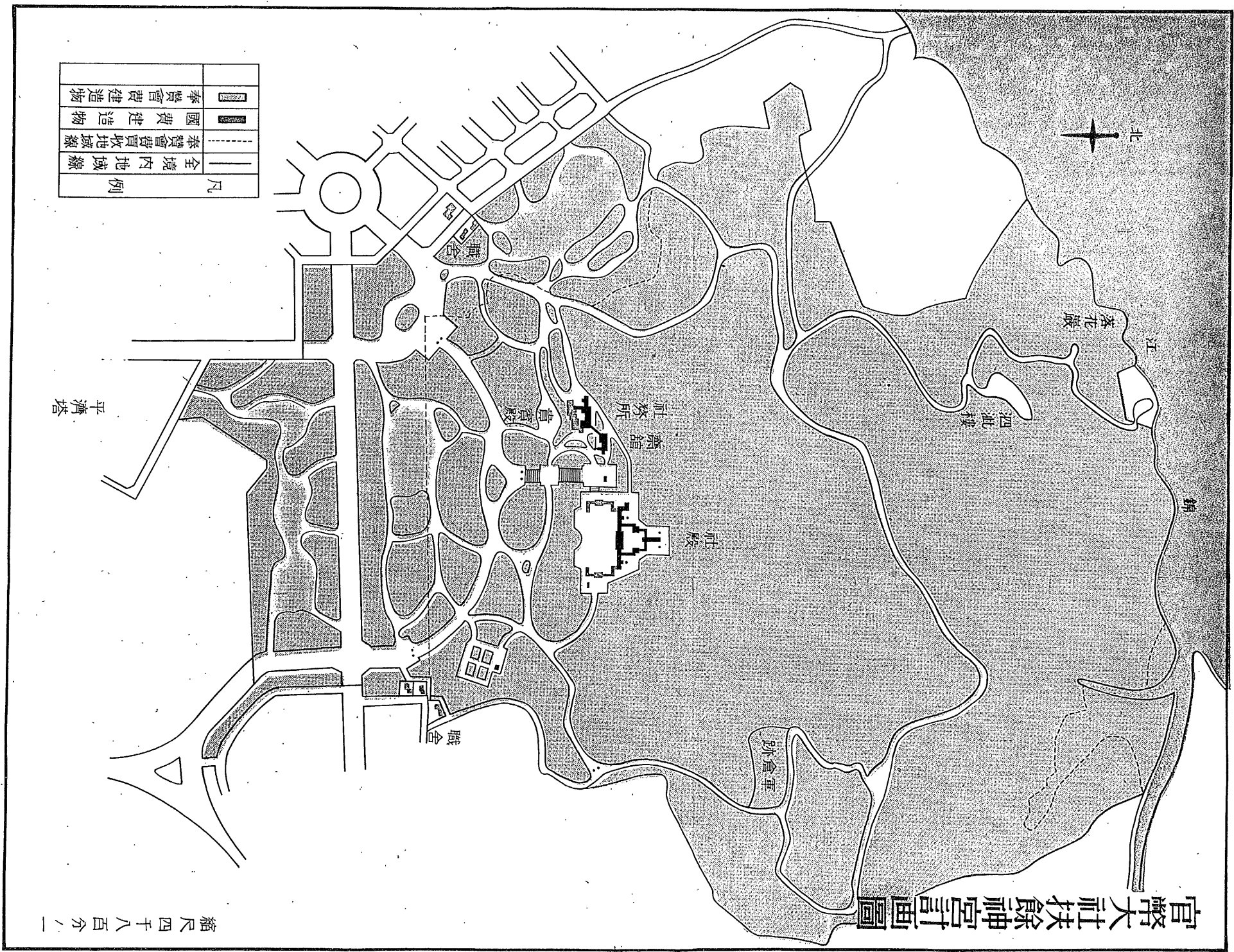
高 安 彦
伊 藤 基 弘
松 村 泰 男
金 村 泰 樹
武 永 憲 樹

慶 尙 北 道 支 部 長
慶 尙 南 道 支 部 長
黃 海 道 支 部 長
平 安 南 道 支 部 長
平 安 北 道 支 部 長
江 原 道 支 部 長
咸 鏡 南 道 支 部 長
咸 鏡 北 道 支 部 長

一 四
高 尾 甚 造
西 岡 芳 次 郎
山 木 文 憲
下 飯 坂 元
白 石 光 治 郎
柳 生 繁 雄
瀬 戸 道 一
大 野 謙 一

I-0521

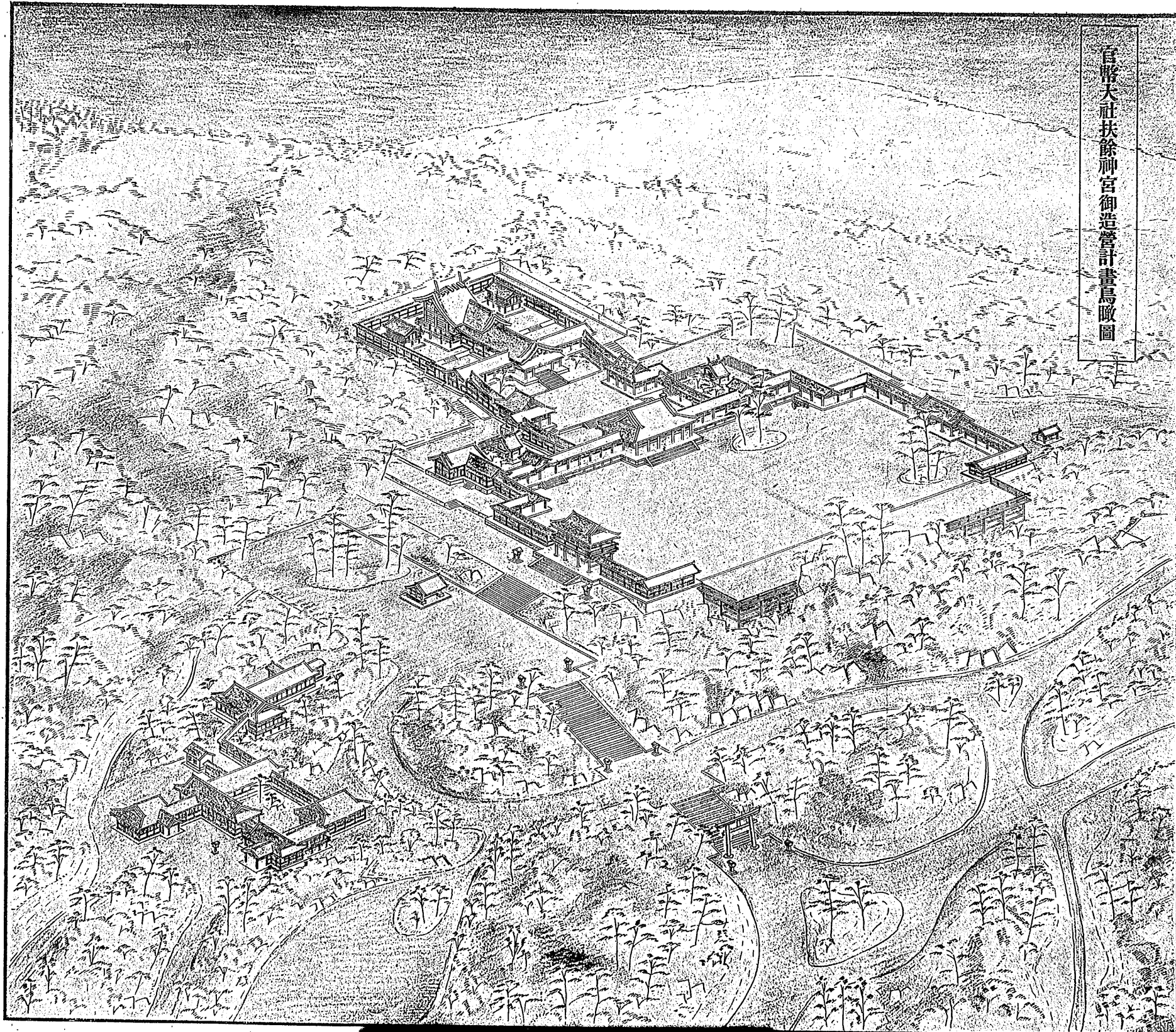
0553



I-0521

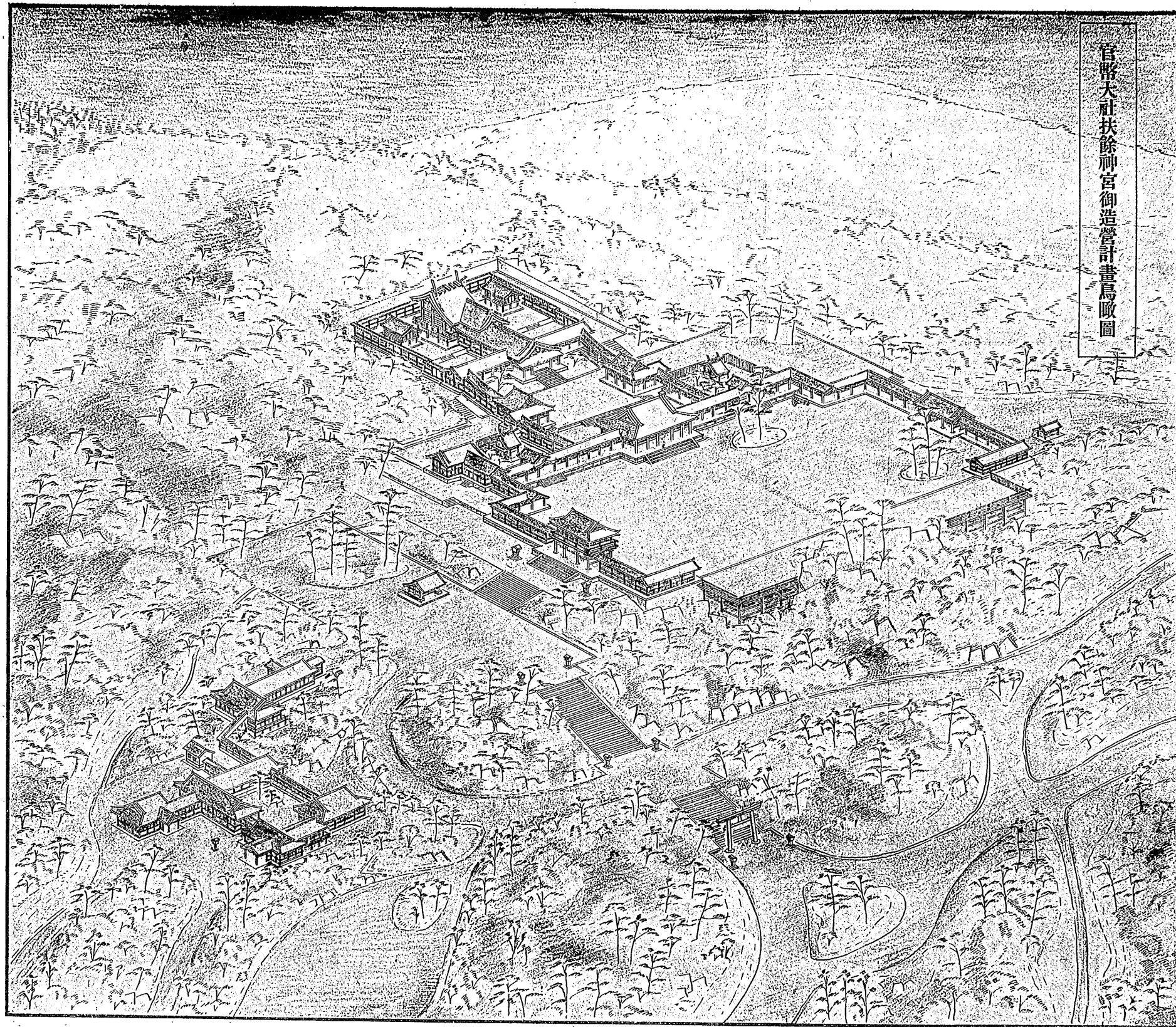
0554

官幣大社扶餘神宮御造營計畫鳥瞰圖



I-0521

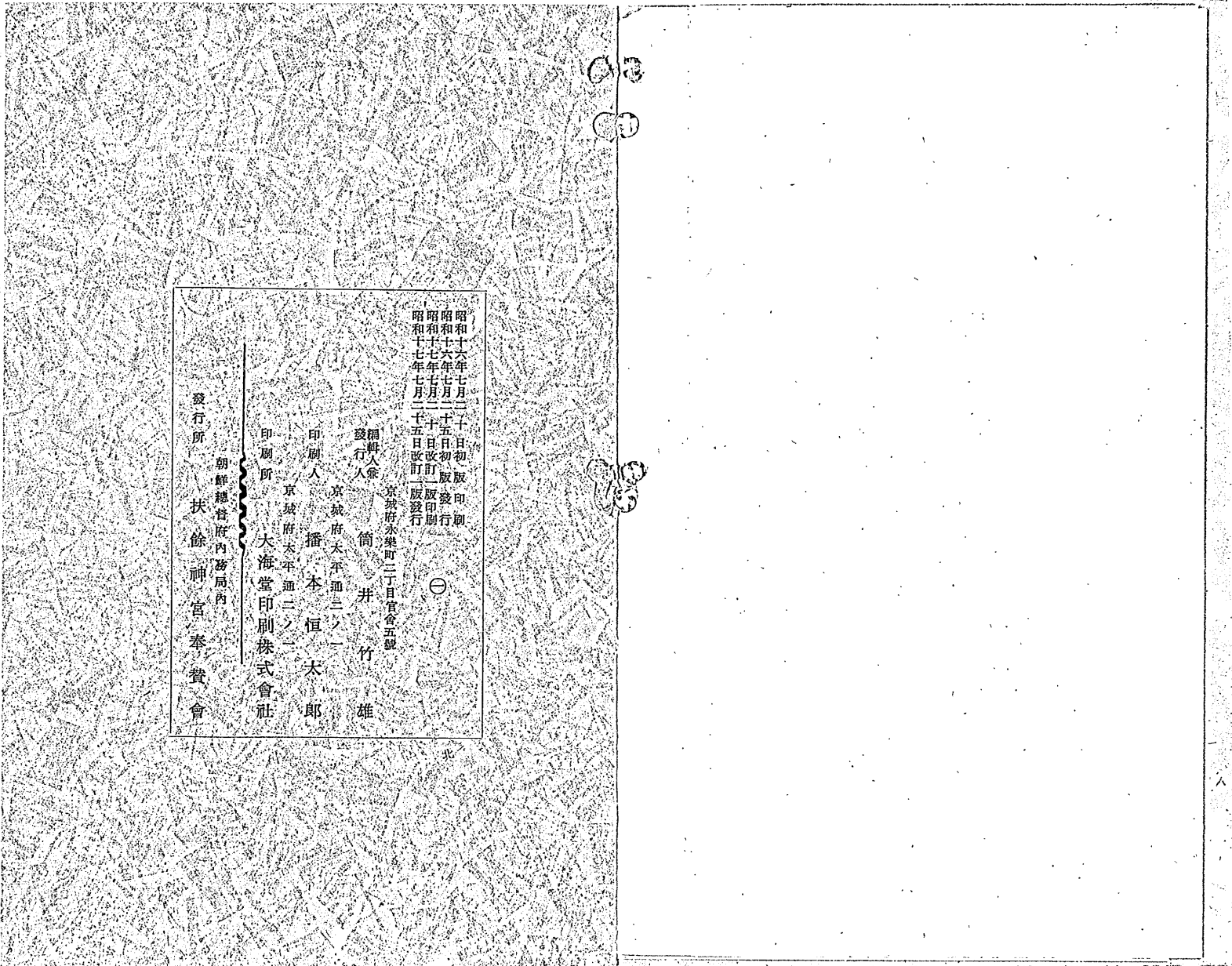
0555



官幣大社扶餘神宮御造營計畫鳥瞰圖

I-0521

0556



昭和十六年七月二十日初版印刷
 昭和十七年七月二十日改訂版印刷
 昭和十七年七月二十日改訂版發行

編輯人 筒井竹雄
 發行所 京城府永樂町二丁目官舎五號

印刷人 京城府太平通二ノ一 播本恒太郎
 印刷所 京城府太平通二ノ一 大海堂印刷株式會社

發行所 朝鮮總督府內務局內 扶餘神宮奉贊會

I-0521

0550